



# 高知港長期構想検討委員会 第2回委員会 資料

平成31年3月  
高知県

## <目 次>

|     |                         |    |
|-----|-------------------------|----|
| 1.  | 高知港長期構想の策定について          | 3  |
| 1.1 | 高知港長期構想の策定に向けて          |    |
| 1.2 | 高知港長期構想検討委員会の検討フロー      |    |
| 2.  | 第1回委員会の意見と対応            | 6  |
| 2.1 | 第1回委員会の意見と対応            |    |
| 3.  | 高知港長期構想（案）              | 8  |
| 3.1 | 高知港の役割                  |    |
| 3.2 | 高知港の将来像                 |    |
| 3.3 | 高知港の基本戦略                |    |
| 3.4 | 空間利用ゾーニング               |    |
| 3.5 | 高知港長期構想における具体的取り組みの展開   |    |
| 3.6 | 高知港長期構想に基づく施策とスケジュール（案） |    |
|     | 参考資料                    | 31 |

# 1. 高知港長期構想の策定について

- 1.1 高知港長期構想の策定に向けて . . . . . 4
- 1.2 高知港長期構想検討委員会の検討フロー . . . . . 5

## 背景

- 高知港の港湾計画は、平成12年度に改訂（目標年次平成20年代前半）してから**15年以上経過**
- フェリー航路の廃止やセメント工場の生産中止など港の状況は**大きく変化している**一方、近年外国クルーズ客船の寄港が**大幅に増加**
- 高速道路の延伸など、高知港周辺の**道路ネットワークが大きく変化**
- 三重防護事業など高知港における地震・津波対策が本格化
- 東日本大震災を踏まえ、大規模災害時における港湾の役割が変化

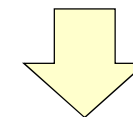
## 趣旨

- 概ね20～30年間の長期的な社会、経済情勢の見通しや地域の動向を踏まえ、港湾の長期的な発展方向を示す「高知港長期構想」を策定することを目的として、「高知港長期構想検討委員会」を設置する
- 長期構想を踏まえ、10～15年間を対象期間とする新たな港湾計画の素案を策定

## 対象期間

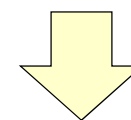
- 長期構想の対象期間は概ね20～30年間（2040年～2050年）
- 港湾計画の対象期間は概ね10～15年間（2030年～2035年）

現高知港港湾計画  
(H12改訂)



国際・国内  
情勢の変化

高知港長期構想策定  
概ね30年先の見通しや動向を  
踏まえて策定



高知港港湾計画改訂  
10～15年先を目標年次として策定



## 高知港長期構想検討委員会スケジュール

| 年度    | 委員会等                      | 検討内容                                             | その他          |
|-------|---------------------------|--------------------------------------------------|--------------|
| 2018年 | 2018.11 第1回委員会・幹事会        | ・ 高知港の現況<br>・ 高知港の課題の抽出                          |              |
|       | 2019.2 第2回 幹事会            | ・ 第1回委員会での主要意見と対応<br>・ 港の将来像<br>・ 課題解決に向けた今後の方向性 |              |
|       | 2019.3 第2回 委員会            |                                                  |              |
| 2019年 | 2019.7 第3回委員会・幹事会<br>(予定) | ・ 第2回委員会での主要意見と対応<br>・ 長期構想素案                    | パブリックコメントの実施 |
|       | 2019.● 第4回委員会・幹事会<br>(予定) | ※委員会での検討状況に応じて開催                                 |              |
| 2020年 | ＜港湾計画の見直し＞                |                                                  |              |

## 2. 第 1 回委員会の意見と対応

|                    |             |
|--------------------|-------------|
| 2.1 第 1 回委員会の意見と対応 | ・ ・ ・ ・ ・ 7 |
|--------------------|-------------|

## 2.1 第1回委員会での主要意見と対応

| 項目              | 主要意見                                                                                                                                                                                                                               | 対応                                                                                                             |
|-----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 高知港<br>の<br>将来像 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 長期構想の方向 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 港湾利用者目線での30年先を見据えた将来構想が必要である。</li> <li>・ 20～30年先はIoT等を活用した先進的な高知港の検討が必要である。</li> </ul> </li> </ul>                                       | ⇒【基本戦略⑦】<br>「情報通信技術を活用した港湾のスマート化・強靱化への対応」の中で整理                                                                 |
| 物流<br>・<br>産業   | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ フェリー・RoRo船について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ フェリー・RoRo船誘致を視野に入れた将来検討が必要である。</li> </ul> </li> </ul>                                                                             | ⇒【基本戦略①】<br>「地域産業の持続的な発展や競争力強化に資する港湾機能の強化とふ頭の再編」の中で整理                                                          |
|                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 石灰石移出について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内港の脆弱性の存在を理解して頂き、将来の計画を検討して頂きたい。</li> <li>・ 新港のストックヤードが狭いので、西工区も含めて利用計画を検討して欲しい。</li> </ul> </li> </ul>                                |                                                                                                                |
|                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 農水産品の輸出について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新港利用による農水産品の輸出促進に向けた検討が必要である。</li> </ul> </li> </ul>                                                                                 | ⇒【基本戦略②】<br>「地産外商を支え、県内企業の国際競争力を強化するための国際コンテナ物流拠点の形成」の中で整理                                                     |
| にぎわい            | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ クルーズについて <ul style="list-style-type: none"> <li>・ クルーズについて、高知県の売り込みと、客のニーズに差がある、リピーター獲得の為、情報発信が重要だ。</li> </ul> </li> </ul>                                                                | ⇒【基本戦略③】<br>「クルーズ客船の受入機能や体制の強化によるクルーズ拠点の形成」の中で整理                                                               |
|                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 賑わいについて <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 浦戸湾を含めたウォーターフロント構想が賑わいの面では必要である。</li> <li>・ 高松港のような魅力的な施設が高知港にも必要である。</li> <li>・ 内港で遊覧船も運航しており、桂浜に着岸できるよう計画してほしい。</li> </ul> </li> </ul> | ⇒【基本戦略④】<br>「地域の魅力や観光資源を活用した賑わい空間の形成」の中で整理                                                                     |
| 防災              | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 高知県の防災拠点の1つとして <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 緊急物資輸送において、県内海上輸送の4拠点の1つで役割は非常に大きい。</li> <li>・ 人口減少に伴う施設の継続の有無についてしっかり検討していくことが重要である。</li> </ul> </li> </ul>                      | ⇒【基本戦略⑤】<br>「安全な企業活動や安全な暮らしを維持するための港湾の防災機能強化」の中で整理<br>⇒【基本戦略⑥】<br>「既存ストックの適正管理と有効活用するための戦略的ストックマネジメントの推進」の中で整理 |

### 3. 高知港長期構想（案）

|     |                         |                     |    |
|-----|-------------------------|---------------------|----|
| 3.1 | 高知港の役割                  | ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ | 9  |
| 3.2 | 高知港の将来像                 | ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ | 10 |
| 3.3 | 高知港の基本戦略                | ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ | 11 |
| 3.4 | 空間利用ゾーニング               | ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ | 27 |
| 3.5 | 高知港長期構想における具体的取り組みの展開   | ・ ・ ・ ・             | 28 |
| 3.6 | 高知港長期構想に基づく施策とスケジュール（案） | ・ ・ ・               | 30 |



## 3.1 高知港の役割

## 高知港の特性

- 太平洋に面し、地理的優位性を持つ
- 高知県全体の輸出貿易額の35%、輸入貿易額の51%を取り扱う
- 高知港の背後圏人口は、高知県の約73.8%を占める
- 高知港周辺の道路ネットワーク整備による物流の円滑化と利便性の向上
- クルーズ客船寄港の増加

## 高知港を取りまく諸情勢

- 人口減少、高齢化の進行
- コンテナ船、バルク船の大型化
- アジアのクルーズ市場の急成長
- 30年以内の発生率が70%～80%といわれる南海トラフ地震への対策
- インフラの老朽化対策
- 労働力不足（トラック輸送）

## 上位・関連計画

- 港湾の中長期政策「PORT2030」
- 四国圏広域地方計画
- 高知県産業振興計画
- 高知県地域防災計画
- 高知市総合計画 他

## 高知港への要請

- 施設の老朽化対策
- 水深の確保
- 高知新港メインバース前面における静穏度の確保
- 高知新港岸壁輻輳への対応

## 高知港が将来担っていくべき役割

## 役割①

地産外商を支える輸出拠点であるとともに、地場産業の競争力強化を支援し、地域経済の発展に貢献する港

## 役割②

周辺の観光資源等やまちづくりと一体となった魅力ある空間を形成し、西日本太平洋側における国際クルーズ客船寄港の交流拠点として国際観光の推進に貢献する港

## 役割③

南海トラフ地震に備えて、地域の安全と安心の確保に貢献する港

## 高知港が対応すべき課題

## &lt;物流&gt;

- ふ頭再編（新港）
- 港内静穏度の向上（新港）
- モーダルシフトへの対応
- コンテナ船大型化への対応（新港）
- コンテナの集貨・創貨方策（新港）

## &lt;交流&gt;

- クルーズ客船寄港の定着化・増大への対応（新港）
- 海洋レジャーへの対応
- 賑わいの創出

## &lt;防災&gt;

- 防災拠点港としての機能強化
- 港湾施設の老朽化対策（内港）

## 高知港の将来像

## 『太平洋を介して世界と結び、生活や産業を支え、成長の活力をつくり出す 高知港』

高知港が県経済の発展に今後も貢献していくために、これまで培ってきた物流機能などや  
様々なポテンシャルを最大限に活かしつつ、港湾機能の充実・強化を図る

## 将来像

## 【物流】

産業振興や経済成長を牽引する  
物流・生産拠点としての  
“みなと”

## 【交流】

国内外の旅行客や市民に開かれた  
交流の場としての  
“みなと”

## 【安全・安心】

自然災害や老朽化に対する  
安全や安心を確保する場としての  
“みなと”

## 目指すべき姿

県産品の外商促進、地域産業の持続的  
な発展のため、競争力強化に資する  
国際物流拠点の形成を目指す

地域資源を活用した魅力的な空間を  
形成し、にぎわいの創出や  
地域活性化を目指す

災害に強い港づくりを目指すとともに、  
港湾利用者が安全・安心を実感  
できる港の構築を目指す

## 基本戦略

## ■基本戦略①

地域産業の持続的な発展や競争力強化に資する  
港湾機能の強化とふ頭の再編

## ■基本戦略③

クルーズ客船の受入機能や体制の強化による  
クルーズ拠点の形成

## ■基本戦略⑤

安全な企業活動や安心な暮らしを維持するための  
港湾の防災機能強化

## ■基本戦略②

地産外商を支え、県内企業の国際競争力を  
強化するための国際コンテナ物流拠点の形成

## ■基本戦略④

地域の魅力や観光資源を活用した賑わい  
空間の形成

## ■基本戦略⑥

既存ストックの適正管理と有効活用するための  
戦略的ストックマネジメントの推進

## ■基本戦略⑦

情報通信技術を活用した港湾のスマート化・強靱化への対応

## 基本戦略① 地域産業の持続的な発展や競争力強化に資する港湾機能の強化とふ頭の再編

### 現況及び課題

#### ふ頭再編

- 企業から港を利用したいと要請があっても、高知港では**用地不足**のため現状では対応できない状況
- クルーズ客船の寄港増加により、**バルク貨物船との輻輳や港湾利用にあたる不便が生じている**

#### 港湾用地不足



#### 混雑する高知新港岸壁

##### バース調整例

| 7-2岸壁 | 月 | 火  | 水 | 木   | 金 | 土   | 日 | 月 | 火 | 水  | 木 |
|-------|---|----|---|-----|---|-----|---|---|---|----|---|
| 客船    |   | 予約 |   | 仮予約 |   | 仮予約 |   |   |   | 予約 |   |
| バルク船  | X | X  | X | X   | X | X   | 0 | 0 | 0 | X  | 0 |

客船は基本的に1年以上前から予約・仮予約が入ることから、バルク船はバース調整に苦慮している。

##### <今後>

- コンテナ増加への対応
- 石灰石取扱量増加への対応
- クルーズ客船増加への対応
- 港湾・海岸工事の活発化



新港全体の利用計画を見直しふ頭再編

#### 防波堤整備状況(高知港三里地区)

##### 防波堤整備状況



- 高知新港では、防波堤が未完成であるため**静穏度が確保されていない**
- そのため、係船中船舶のロープが切れる被害やバースシフトなど利用者にとって**非効率な状態**にある

##### 荷役・接岸障害

港内の静穏度不足によりバースシフトや係留索切断が発生



##### 荷役機会損失





## 基本戦略① 地域産業の持続的な発展や競争力強化に資する港湾機能の強化とふ頭の再編

### 現況及び課題

#### モーダルシフトへの対応

- 社会状況の変化から、**平成17年に高知港を発着する全てのフェリー航路が廃止**
- 輸送量当たりの二酸化炭素排出量は、船舶輸送がトラック輸送の約1/6となっている。また、トラックドライバーの高齢化も進行、**労働力不足が高まる傾向**

#### 高知港におけるフェリー航路の状況

##### (1) フェリー航路就航状況

- ・ S48～H13.9 ブルーハイウェイライン（東京～那智勝浦～高知）
- ・ S46～H17.6 大阪高知特急フェリー（高知～大阪南港）
- ・ H14～H17.6 マリンエクスプレスフェリー

##### (2) 航路廃止要因

- ・ 本四3架橋の完成、高速道路等の整備の進展
- ・ 規制緩和（需給調整規則の廃止）
- ・ 船舶燃料（重油価格）の高騰
- ・ 貨物量の落ち込み

##### (3) 高知～東京便貨物内容（H10頃）

利用企業は、**県内35%、県外65%（愛媛県、香川県）**

##### <上り>

|       |     |         |     |
|-------|-----|---------|-----|
| 農産品   | 30% | 養殖餌     | 20% |
| 化学工業品 | 30% | 空車      | 35% |
| 金属機械  | 10% | 化学品、食糧品 | 15% |
| 木材    | 5%  | 商品車等    | 10% |
| その他   | 10% |         |     |

##### <下り>



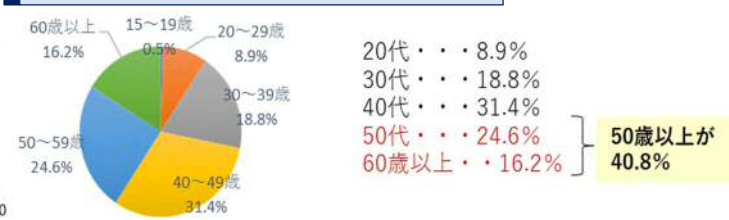
#### 輸送量当たりの二酸化炭素の排出量



**トラック輸送の1/6と海上輸送へのモーダルシフトにより環境負荷を大きく軽減可能**

資料：第1回四国におけるフェリー・RORO船を活用した物流効率化推進協議会資料をもとに作成

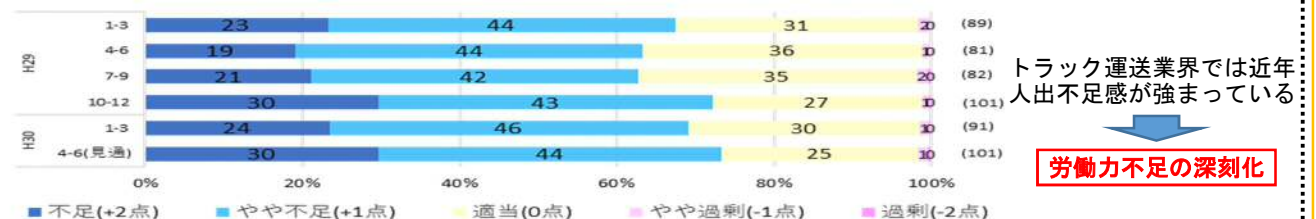
#### トラック業界の年齢構成（平成29年）



若年層の比率が低く、50歳以上の高齢層の比率が高い

資料：公益社団法人 全日本トラック協会 「日本のトラック輸送産業 現状と課題2018」

#### 雇用状況（トラック事業者へのアンケートによる労働力の過不足）



トラック運送業界では近年人出不足感が強まっている

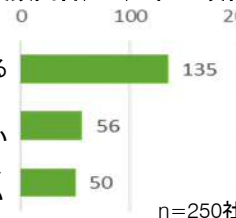
**労働力不足の深刻化**

資料：公益社団法人 全日本トラック協会 「日本のトラック輸送産業 現状と課題2018」

#### 県内事業者へのアンケート

##### ➤ 物流について検討する際の課題（複数回答）（上位3項目）

輸送コストが高くなってきている  
輸送手段の選択肢がトラック輸送しかなく、比較検討できない  
トラックドライバー不足等により、トラック輸送を確保しづらい



##### <海上輸送に対する主な意見>

- 現在の輸送手段の中心はトラック輸送となっており新たな輸送手段が出来れば選択肢の一つとなる。運賃や、出港・到着時間等の条件が合えば利用したい
- 他港発のフェリーを利用しているが、高知港発の時間が合えば利用したい
- 小口配送や海上ルート便があれば検討したい

**輸送コストの上昇やトラック輸送の代替手段としての海上輸送への期待が挙げられている**

## 3.3 高知港の基本戦略 ①地域産業の持続的な発展や競争力強化に資する港湾機能の強化とふ頭の再編

【将来像】 地域産業の持続的な発展のため、ふ頭用地や岸壁などの物流基盤の強化と安定的な物流を維持するための港湾機能の向上により、競争力の強化に資する物流拠点の形成

## 【具体的取組】

短期

中期

長期

①【三里地区】西工区 港湾活動用地の造成  
⇒浚渫土の有効活用(維持管理費等コスト削減)

③【三里地区】国際物流ターミナル整備（仮防波堤前面）  
⇒既存ストックの有効活用

①安定的な物流機能を確保するため、短期的には、浚渫土を有効活用した埋立により、港湾活動用地を造成する。

③バルク船とクルーズ客船との分離を図るため、仮防波堤の沖側に大水深岸壁(12m～14m)を整備し、物流の効率化や生産性の向上を図る。

②【三里地区】西工区 国際物流ターミナル整備  
(バルク貨物への対応)

②バルク貨物の増加や新規貨物へ対応するための大水深岸壁(10m～12m)の整備を行い、地場産業の競争力強化を図る。

## 【高知港三里地区】 将来の利用の方向性



バルク貨物の分散 ～『使いたいときに使えるみなとづくり』～

- ・ 背後用地を必要とする貨物(石灰石他) ⇒ 西工区
- ・ 背後用地を必要としない貨物(石炭、PKS) ⇒ 仮防波堤前面

## 【整備による新たに期待される効果】

## 新規産業の創出

- メタンハイドレートの海洋産出試験の活動拠点としての活用及び商用化の際の陸揚げ基地としての活用

最新のBSR分布図(2009)



## 大規模災害時への対応

- がれき等仮置場としての活用



出典：公益社団法人 日本技術士会  
衛生工学会資料より



## 3.3 高知港の基本戦略 ①地域産業の持続的な発展や競争力強化に資する港湾機能の強化とふ頭の再編

## 【具体的取組】

短期

中期

長期

④荷役障害の解消や機会損失を防ぐための  
港内静穏度の向上

⑤県内企業のニーズにあった海陸一貫輸送システムの構築(フェリー・RoRo航路の誘致)

④高知新港において安定的な物流を維持するために防波堤の早期整備を促進する。

⑤陸上輸送の代替手段の確保により、物流の効率化に資する航路の誘致を目指す。

## 【三里地区】防波堤整備状況



■ 防波堤が完成すれば静穏度(年間荷役稼働率) 97.5%を確保

## ■RORO・内航フェリー航路誘致に向けて

## &lt;課題&gt;

- ・ベースカーゴ(安定的な貨物)の確保
  - ・船舶を利用した輸送システム(無人航走)の構築
- 着目点  
関東方面への輸送ニーズ(コストメリットが前提)  
既存太平洋沖航路に空スペース

## 航路を絞り込んだRoRo船・フェリー船誘致

## &lt;今後の方向性&gt;

## H31.1航路誘致勉強会を官民で開催

今後も継続的に開催し

- 航路誘致策
  - ポートセールス
- の具体策を検討し航路誘致に繋げていく

## 【航路実現による効果】

## &lt;トラック事業者のメリット&gt;

- ・無人化航送でドライバー不足解消
- ・長時間運転解消によるドライバーの労務改善
- ・交通事故のリスク軽減
- ・事業者の信頼性の向上

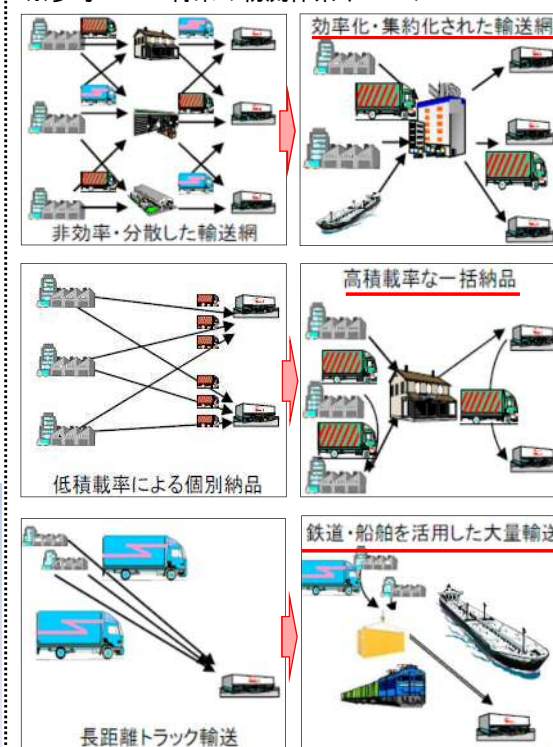
## &lt;荷主のメリット&gt;

- ・物流コスト低減
- ・定時性の確保
- ・生鮮食品等の荷痛みのリスク軽減

## &lt;社会全体に与える効果&gt;

- ・CO2排出量削減による環境負荷の低減
- ・大規模災害等において緊急物資を大量輸送することが可能

## ※参考 将来の物流体系イメージ



資料：第3回中部におけるフェリー・RoRo船を活用した物流効率化推進協議会資料より（中部地方整備局）



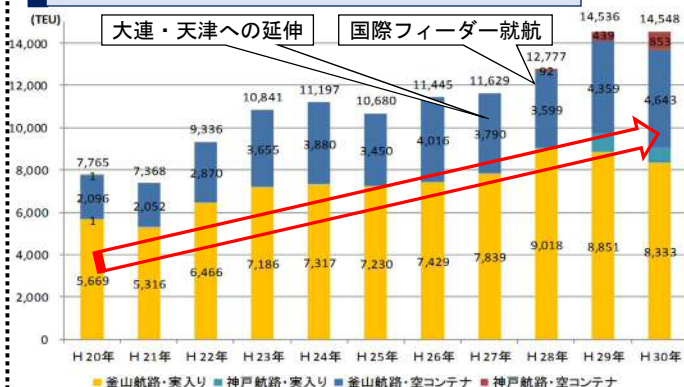
## 基本戦略② 地産外商を支え、県内企業の国際競争力を強化するための国際コンテナ物流拠点の形成

### 現況及び課題

#### コンテナ船大型化への対応

- 高知港では平成27年には週2便ある釜山航路のうち1便が大連・天津まで延伸、平成28年には神戸への内航フィーダーが就航し、利便性が向上したことにより、平成29年は過去最高の14,536TEUを取り扱う
- 寄港している外航コンテナ船のうち、1隻は岸壁水深不足のため喫水調整をして入港しており非効率
- 船舶の大型化へ対応できない場合は、**抜港の可能性**

#### コンテナ貨物量の推移（暦年、H20～）



#### 高知港三里地区コンテナ関連施設



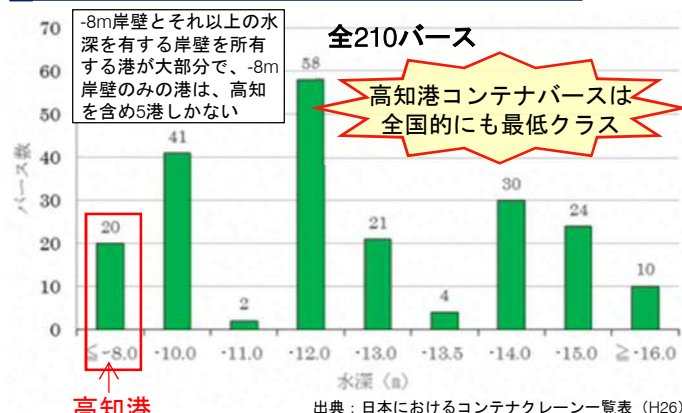
#### 高知新港に寄港するコンテナ船諸元



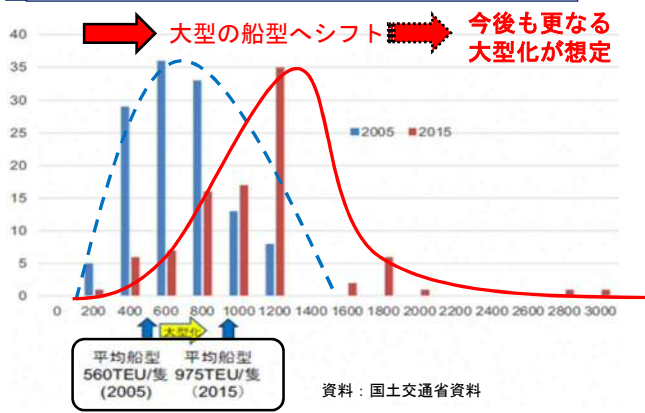
・ 入出港時に喫水調整をしており非効率  
[B社の船は喫水を7.2mに調整して入出港]

| 船名     | A        | B         | C        |
|--------|----------|-----------|----------|
| 積載量    | 704TEU   | 834TEU    | 104TEU   |
| 載荷重量トン | 8,494DWT | 11,031DWT | 1,600DWT |
| 全長     | 133m     | 126m      | 76m      |
| 幅      | 20m      | 23m       | 13m      |
| 喫水     | 7.70m    | 8.635m    | 4.65m    |

#### 国内全体から見る高知港のコンテナバース



#### 我が国に寄港する中国航路の船型の変化



#### コンテナ船社の統合



先行き不透明

資料：日本海事新聞平成30年10月16日

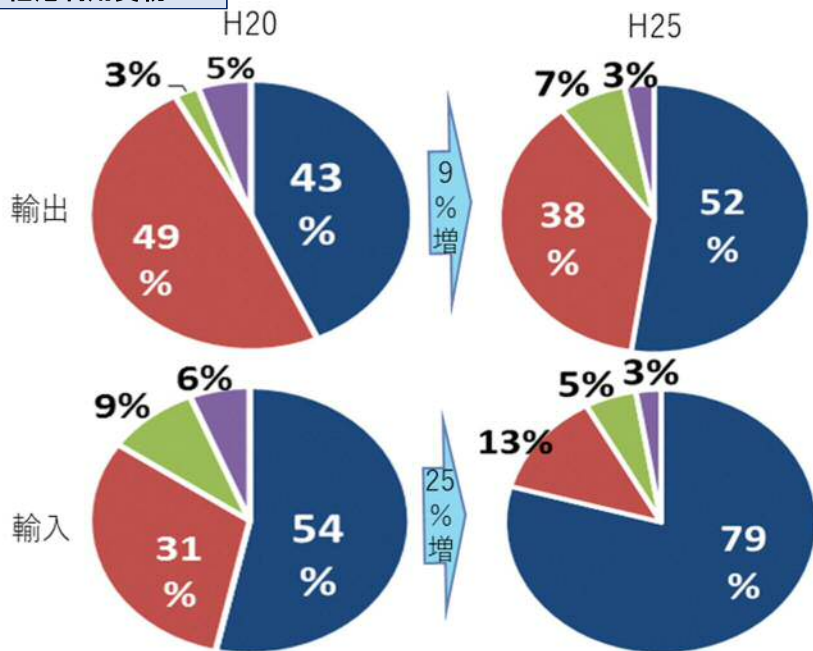
## 基本戦略② 地産外商を支え、県内企業の国際競争力を強化するための国際コンテナ物流拠点の形成

### 現況及び課題

#### コンテナ貨物の集貨

- 県内発生コンテナ貨物のうち、  
輸出で48%・輸入で21%が他港を利用

#### 他港利用貨物



資料：H20,H25コンテナ貨物流動調査

#### <他港利用原因>

- 便数が少ないため、リードタイムが厳しい貨物は他港を利用
- 物流ルートは商社や取引先が決定
- 釜山港での積替えに伴うトラブルへの不安

#### 農林水産物の輸出拡大

- 第3期高知県産業振興計画では、農林水産物の輸出拡大を目指しており、港を利用した輸出につながるよう港湾機能の向上や物流サービスの提供を検討していく必要がある

#### 高知県産物の輸出額推移



資料：高知県の貿易（ジェトロ、高知県）

- ・ H29年度は、10億円を突破
- ・ H21年度から8年で20倍に増加

#### 高知港における農林水産物輸出実績

| 品目名    | H24   | H25   | H26   | H27   | H28   |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 野菜・果物  | 145   | 0     | 0     | 0     | 0     |
| その他農産品 | 606   | 118   | 80    | 0     | 27    |
| 原木     | 361   | 0     | 835   | 879   | 466   |
| 製材     | 1,627 | 1,953 | 1,672 | 2,195 | 2,942 |
| 木製品    | 226   | 0     | 12    | 0     | 26    |
| 水産品    | 70    | 154   | 0     | 79    | 0     |
| 製造食品   | 491   | 698   | 926   | 755   | 596   |

出典：港湾統計

H24から増加ー H24から減少ー

- ・ 製材や原木は増加傾向であるが、農水産物の利用は僅か
- ・ 輸出される農水産物の多くが、高知から陸路で他港に集約され輸出されている

#### 高知港を利用したコンテナ輸出



資料：高知新聞 平成30年10月25日朝刊

#### 四国における港湾を利用した農林水産物輸出促進検討会

四国の農林水産物の更なる輸出拡大を目的として、高知港をモデルに港湾を活用した効率的な輸送について検討することを目的



<H30.2 第1回検討会の模様>



## 3.3 高知港の基本戦略 ②地産外商を支え、県内企業の国際競争力を強化するための国際コンテナ物流拠点の形成

【将来像】 物流コストの削減と安定的な物流の確保により、企業の競争力強化を図るとともに、農林水産物等の輸出促進を図っていくための国際コンテナ物流拠点の形成

## 【具体的取組】

短期

中期

長期

①コンテナ船の大型化に対応した係留機能の強化  
【三里地区】-8mコンテナ岸壁の増深

①コンテナ船の大型化に対応していくため、三里地区-8m岸壁及び前面泊地を増深（-10m～-12m）し、コンテナ物流の安定化による県内企業の国際競争力強化を目指す。

三里地区（コンテナバース）

-8m岸壁・泊地

岸壁・泊地増深（-10m～-12m）



短期

中期

長期

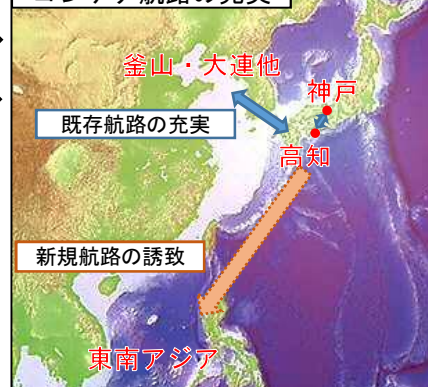
②県内の他港利用貨物を取り込むための集荷機能の向上

③農林水産物等の輸出促進拠点の形成

②サービス水準を向上させるため、高知港に寄港する便数の増加や東南アジアへのダイレクト航路の開設など利用需要の多い航路の誘致を図り、県産品の輸出促進や企業の国際競争力強化を目指す。

③県内の農林水産物等の輸出拡大に向け、必要な港湾機能の向上や物流サービスの提供により、輸出促進拠点の形成を図る。

コンテナ航路の充実



農林水産物の輸出の物流イメージ(将来像)



物流サービスの高度化 ～「安く運ぶ」「より多く、品質を守って運ぶ」ためには～

- 小口混載コンテナサービスの充実
- コールドチェーンインフラの整備

- 鮮度保持輸送技術の向上 ～船で1週間輸送しても飛行機同様に鮮度保持できる技術～



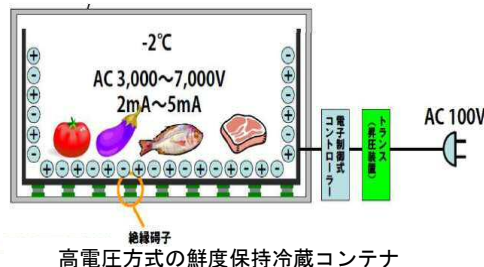
小口混載コンテナ

資料：第三回苫小牧港長期構想検討委員会資料



CAコンテナ

資料：国土交通省資料



高電圧方式の鮮度保持冷蔵コンテナ

資料：国土交通省資料

コンテナターミナルを通じて海外へ フェリー・RO-RO船で国内各地へ

- 高知新港と高知龍馬空港は近接しているため、港湾と空港のダブルポートによって国内外に効率的な輸移出入が実現可能
- 高速道路のICにも近接しているため、県内の流通拠点を形成

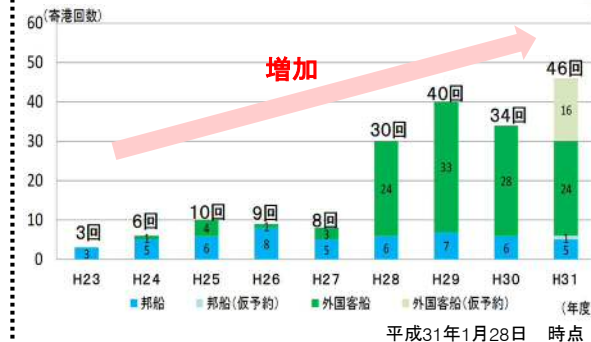
## 基本戦略③ クルーズ客船の受入機能や体制の強化によるクルーズ拠点の形成

### 現況及び課題

#### クルーズ客船寄港の定着化・増大への対応

- 近年、高知新港へのクルーズ客船の寄港が大幅に増加し**観光振興に大きく寄与**している
- 年度末には、客船ターミナルも完成するとともに石灰石ヤードと駐車場との境にフェンスを整備中であり、受入環境は大きく向上する
- **中国発着便が大幅に減少した一方で、外国客船の日本発着クルーズやワールドクルーズが増加するなど、寄港するクルーズ船の種別が大きく変化**

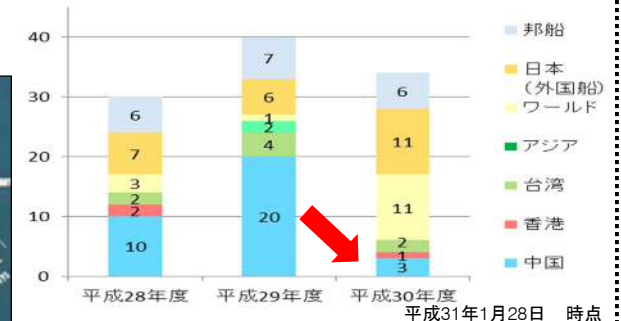
#### 高知新港への客船寄港回数の推移



#### 受入環境の向上



#### 高知新港に寄港するクルーズ客船種別



中国発着便が大幅に減少⇒**多種多様な客船に変化**  
※九州や西日本管内の港を中心に寄港数の伸び悩みや減少が鮮明

#### クルーズ船受注計画

今後10年間で**120隻のクルーズ船建造**



資料：日本海事新聞 平成30年11月29日

#### 増加要因

##### 受入環境整備

- ・連続した大水深岸壁供用
- ・外国客船に対応した施設整備(係船柱、防舷材、バースヤード など)
- ・防波堤整備

##### 観光

- ・高知新港周辺には多様な観光資源がコンパクトに集積(車で約60分以内で移動可能な箇所が多数)

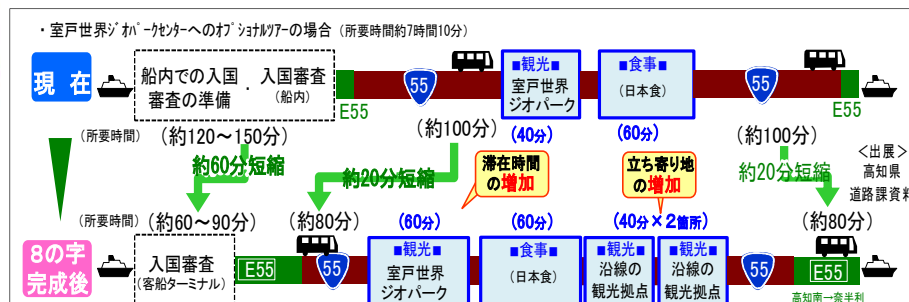
##### 積極的な誘致活動

- ・船会社等訪問
- ・海外クルーズコンベンション
- ・客船モニターツアーの開催
- ・クルーズセミナーの開催

##### 地理的優位性

- ・太平洋に面している立地
- ・西日本で数少ない16万トン級のクルーズ客船が着岸可能な
- ・高知はクルーズツアーの経由地として好位置

ターミナル整備と高速道路延伸により滞在時間が増加⇒**立ち寄り地の増加**





## 3.3 高知港の基本戦略 ③クルーズ客船の受入機能や体制の強化によるクルーズ拠点の形成

【将来像】クルーズ客船の寄港の定着や増大に向け、港湾施設の機能強化を図るとともに、官民が連携した客船誘致や受入体制の充実を図り、西日本太平洋側におけるクルーズ拠点の形成

## 【具体的取組】

短期

中期

長期

## ①世界最大級のクルーズ客船に対応した港湾機能の強化

- ①三里地区において、クルーズ客船の大型化への対応や複数のクルーズ客船が同時接岸できる受入環境を整備する。



## ②クルーズ客船の誘致や受入体制の充実化

- ②多種多様なクルーズ客船に対して、それぞれに見合った誘致方策を検討し、客船寄港の定着化・増大を目指すとともに、新たな周遊ルートづくりなど魅力ある観光商品の開発や、観光地の分散化などを図り、客船寄港による経済効果をさらに拡大していく。  
また、クルーズ旅行者や市民の交流の場として客船ターミナルを中心に賑わいの創出を図るとともに、市民が安全・多目的にみなとを利用できるような環境づくりを行う。

## 【多様化するクルーズ及びツアー】

## フライ&amp;クルーズ

由布院温泉宿泊・季節会席と大阪・横浜クルーズ6日間



函館港寄港後、北海道新幹線等を利用し、途中沿線観光地で宿泊、翌日秋田港から乗船するツアー

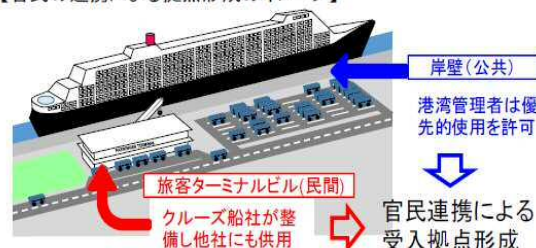


魅力ある観光商品の開発・観光地の分散化  
⇒客船寄港による効果を拡大

西日本太平洋側における  
国際クルーズ拠点の形成

⇒社会情勢に左右されることなく、継続的に  
クルーズ客船が寄港する港を目指す

【官民の連携による拠点形成のイメージ】



## 【ターミナル等を活用した賑わいの創出】

## 高台展望スペースイメージ



## 《活用例》みなと学習



## 客船ターミナルイメージ



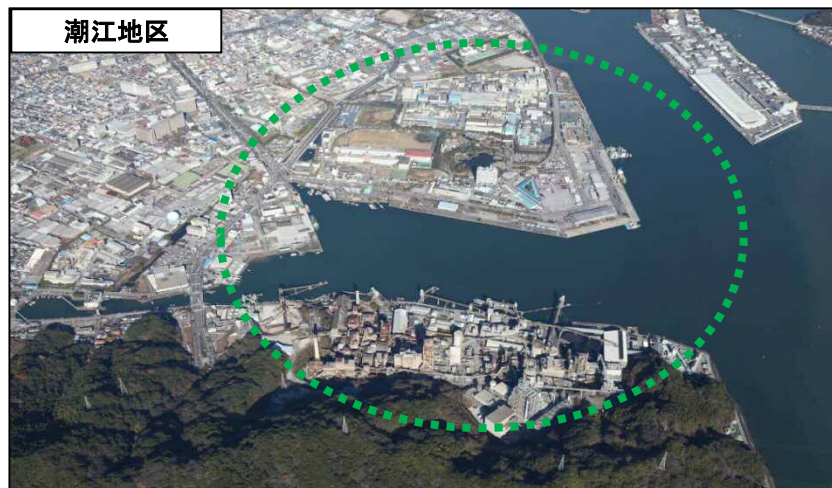
客船寄港時には、クルーズ旅行者や市民の交流の場として、  
平時には市民が多目的に利用できる場としての環境づくりを行う

## 基本戦略④ 地域の魅力や観光資源を活用した賑わい空間の形成

### 現況及び課題

#### 賑わいの創出

- 高知市の中心市街地から至近距離にある潮江地区臨海部は、賑わいや憩いの空間が不足し、**市民目線から見れば近くて遠い存在**



#### <課題>

- ・みなとの周辺で散策・飲食・ショッピング等を楽しめ、交流もできるような空間づくりを進める必要がある。
- ⇒ 港湾空間を「モノづくり空間」だけでなく、「コトづくり空間」に造り替え、空間の質を向上させていくことが重要
- ・遊休化した内港地区の有効活用を図っていく必要がある。
- ・「陸からの視点」のみならず「海からの視点」も考慮した空間形成や歩きやすい歩行者空間を形成する必要がある。
- ・みなと周辺施設と連携した取り組みが必要がある。

小名浜港さんかく倉庫



資料：福島県小名浜港湾建設事務所提供

#### 防波堤の活用

- 国土交通省港湾局では、観光資源としての既存インフラの有効活用や港湾における文化振興の一環として、港湾における釣り施設や既存の防波堤の利活用を進めている

【熱海港外防波堤の港内側を釣り施設とした事例】

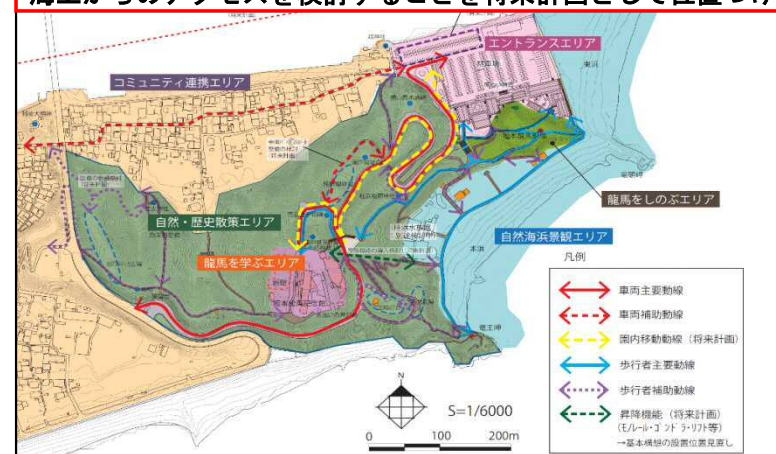
港湾管理者がフェンス等の安全施設を設置し、**防波堤上を「海釣り施設」として開放**した結果、周辺商業施設にも波及効果が生まれる

- 現在、国では地域の関係者による釣り文化振興の取組みが進められている港湾を、**釣り文化振興促進モデル港**として指定予定
- 県内では、**高知港**において関係者からなる協議会を設立し、**モデル港に応募**

#### 海上アクセス

【桂浜公園整備基本計画より(平成28年10月)】

海上からのアクセスを検討することを将来計画として位置づけ



- ・ 浦戸湾内から桂浜公園へのアクセスに使用する客船の船着場を整備する
- ・ ホエールウォッチングや桂浜を海から眺める観光遊覧船などの発着場としての活用も留意する



### 3.3 高知港の基本戦略 ④地域の魅力や観光資源を活用した賑わい空間の形成

【将来像】“みなと”と市民が触れ合うことができる空間を提供するとともに、世界・全国からの観光客の玄関として「おもてなし空間」を創造し、賑わいや潤いのある魅力的なウォーターフロント空間の形成

#### 【具体的取組】

短期

中期

#### ①良好な水辺空間に市民や旅行客が集い、レジャー等を楽しむことが出来る空間の形成

①【潮江地区】民間資金も活用した賑わい空間の形成を図り、地域のブランド価値の向上を図る。

①【三里地区】観光資源として有効活用するため、防波堤等をレジャー施設として開放する。

#### 【潮江地区】賑わい空間の形成



#### 【三里地区】防波堤の有効活用



資料：防波堤等の多目的使用に関するガイドライン  
（国土交通省港湾局）  
既存の港湾施設を活用した日本の釣り文化の振興\_参考資料



### 3.3 高知港の基本戦略 ④地域の魅力や観光資源を活用した賑わい空間の形成

#### 【具体的取組】

短期

中期

#### ②高知港内における小型旅客船ネットワークの構築

②浦戸湾や周辺の観光資源を活かすため、陸上交通とも連携した、市民・観光客の足となる港内海上輸送ネットワーク（小型旅客船ネットワーク）を構築し、小型旅客船を活用した水辺と個性的な各施設の回遊性向上を図り、新たな「まちあそび」を創出する。



三重防護事業で整備予定の  
湾口防波堤背後の静穏域を活用



#### 【期待される効果】

- ・浦戸湾内は眺望に優れた地域であり、水上交通での移動により、海からの視点による新たな観光ニーズや魅力の発掘・認知にもつながることが期待



## 基本戦略⑤ 安全な企業活動や安心な暮らしを維持するための港湾の防災機能強化

### 現況及び課題

#### 防災拠点港

- 高知県地域防災計画や高知市地域防災計画において、高知港は災害時の緊急物資輸送活動における海上輸送の拠点として位置づけ
- 平成25年度に策定した防災拠点配置計画では、高知港は災害時に県外から緊急物資を受け入れる「一次防災拠点港」に位置づけ

防波堤整備状況



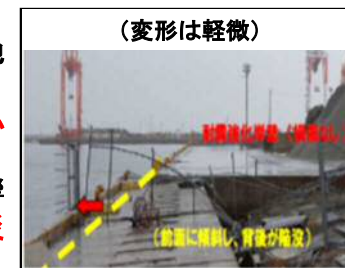
防災拠点港配置計画図



#### 耐震強化岸壁

- 耐震強化岸壁は、東潮江地区と三里地区に1箇所ずつ整備しているが、**背後圏人口に対する緊急物資必要量から必要となる岸壁数は3箇所**
- 内港の東潮江地区は、長期浸水の影響を受けるため、外港の三里地区の防災機能強化を図っていく必要がある。

(変形は軽微)



東日本大震災では有効に機能

#### 港湾BCP

- 津波漂流物を処理し、早期に航路啓開するための体制や、行動方針をとりまとめた**高知港BCPは、平成25年度に策定**
- 港湾BCPでは、発災後おおむね1週間後には、海上輸送路を確保することを目標
- 港湾BCPの実効性向上に向け、広域的な支援体制について関係機関と協定書を締結し体制を整えるとともに、机上訓練や無線訓練、物資輸送訓練を実施

小型船舶流出



岸壁の沈下



岸壁の変形



蔵置物流出



大規模災害時に想定される被害状況

東日本大震災写真  
(出典：国土交通省)



## 3.3 高知港の基本戦略 ⑤安全な企業活動や安心な暮らしを維持するための港湾の防災機能強化

- 【将来像】 ■ 大規模災害発生時において、緊急物資輸送等の海上輸送による拠点機能の強化を図るとともに、港湾と背後道路ネットワークを一体として機能させることによる地域防災力の向上
- 港湾BCPの実行性の向上を図り、港湾施設・企業活動が早期に再開可能となる港湾の強靱化

## 【具体的取組】

短期

中期

長期

## ①防災拠点港としての機能強化

【三里地区】防波堤の延伸・粘り強い化の早期完成

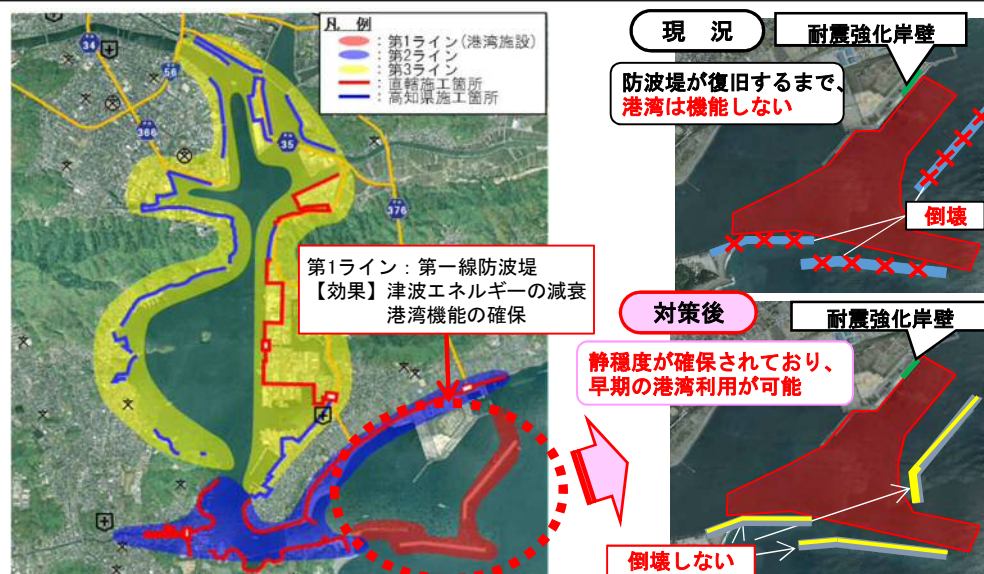
## ②防災拠点港としての機能強化

【三里地区】耐震強化岸壁の整備

## ③訓練等を通じた実効性の担保による 港湾BCPの充実（BCM実施）

①津波に対して、防災・減災効果を発揮できるよう、現在整備中の防波堤の延伸・粘り強い化について早期に完成させる。

②三里地区に、新たに大規模災害時における緊急物資の輸送用の耐震強化岸壁を配置し、地域防災力の強化を目指す。



高知港海岸における三重防護の概要

出典：第一回高知港における地震津波防護の対策検討会資料より



## 高知新港を活用した緊急物資輸送網



高知新港で陸揚げした緊急物資等を広域防災拠点等広域へ輸送

③大規模災害時における実行性を向上させるために、定期的な机上訓練や緊急物資の輸送訓練等を通じて、PDCAサイクルに基づいた港湾BCPの充実を図る。

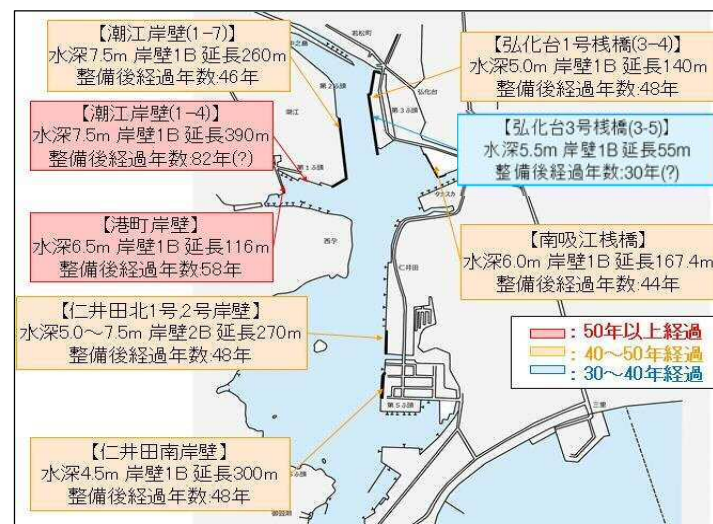




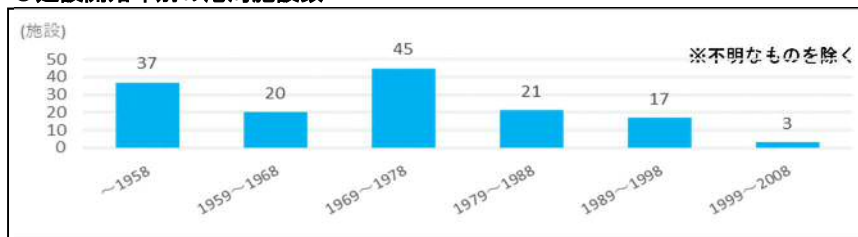
## 基本戦略⑥ 既存ストックの適正管理と有効活用するための戦略的ストックマネジメントの推進

### 現況及び課題

- 高知港(浦戸湾内)の港湾施設は、高度経済成長期である昭和40年代に整備された施設が多く、**老朽化が進行**
- 10年後には、7割以上の施設が供用後50年以上を経過し、**維持・更新費用が集中・増大する懸念**
- 県では、今後50年間にわたり適切に維持することを目標に、点検の実施時期、維持補修の内容や時期等について定めた維持管理計画を策定



○建設開始年別の港湾施設数



○建設開始後50年以上経過する港湾施設の割合



【将来像】 既存インフラの価値の最大化を図っていくため、施設の利用や劣化状況を踏まえ、効率的かつ効果的な維持管理・修繕を実施するなど、戦略的な維持管理による港湾利用者の安全・安心の確保

### 【具体的取組】

短期

中期

長期

①適切な維持管理計画の更新、維持管理計画に基づいた点検・補修・長寿命化工事の実施

②利用状況や将来的な利用計画に応じた機能の集約や見直しによる埠頭の再編

①維持管理計画に基づき点検・調査を実施するとともに、施設の劣化状況や利用状況を踏まえ対策の優先順位づけを行い、適切な時期に補修・長寿命化工事を実施していく。

②浦戸湾内は港湾施設の将来動向を見据え、残すべき既存ストックを選別するとともに、機能の集約化や必要なスペックへの見直し等を図ることにより、コンパクトで効率的なふ頭へ再編する。

既存ストックを賢く使うふ頭再編の事例(三河港)



資料：平成26年度港湾施設の維持管理に関する技術講習会資料（国交省）

## 3.3 高知港の基本戦略 ⑦情報通信技術を活用した港湾のスマート化・強靱化への対応

【将来像】 AI(人工知能) やIoTなどの飛躍的な情報通信技術の発展に応じて、それを活用していくことによる港湾のスマート化や強靱化への対応

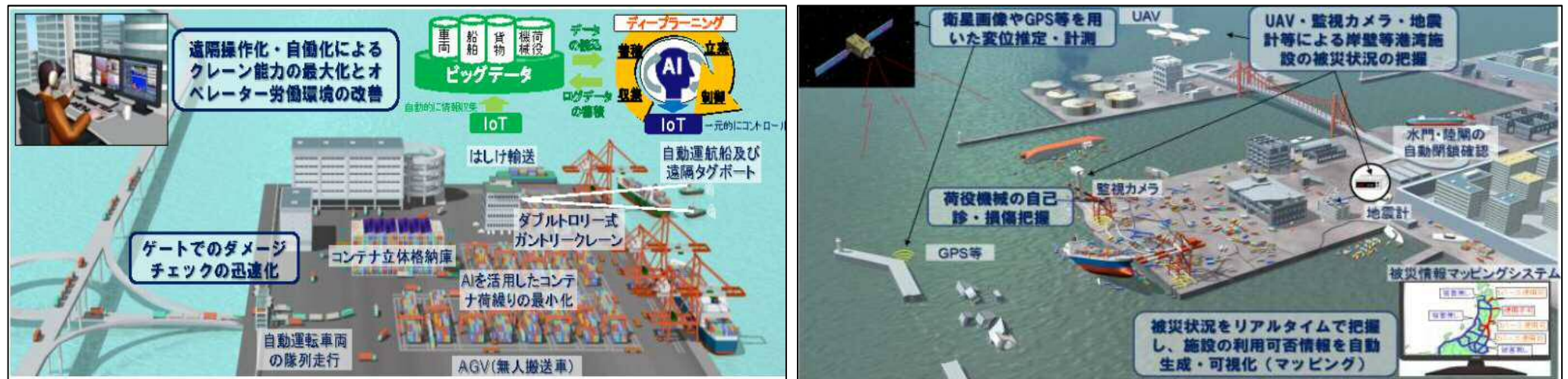
## 【具体的取組】

## 短中長期

## ①情報通信技術の積極的活用

- ・ AI、IoT等革新的に進化する情報通信技術を積極的に取り入れ、物流の効率化・安定化を図っていくとともに、災害時における緊急物資輸送等の円滑化を図り、物流機能維持に繋げていく。

## 情報通信技術活用イメージ



資料：PORT2030

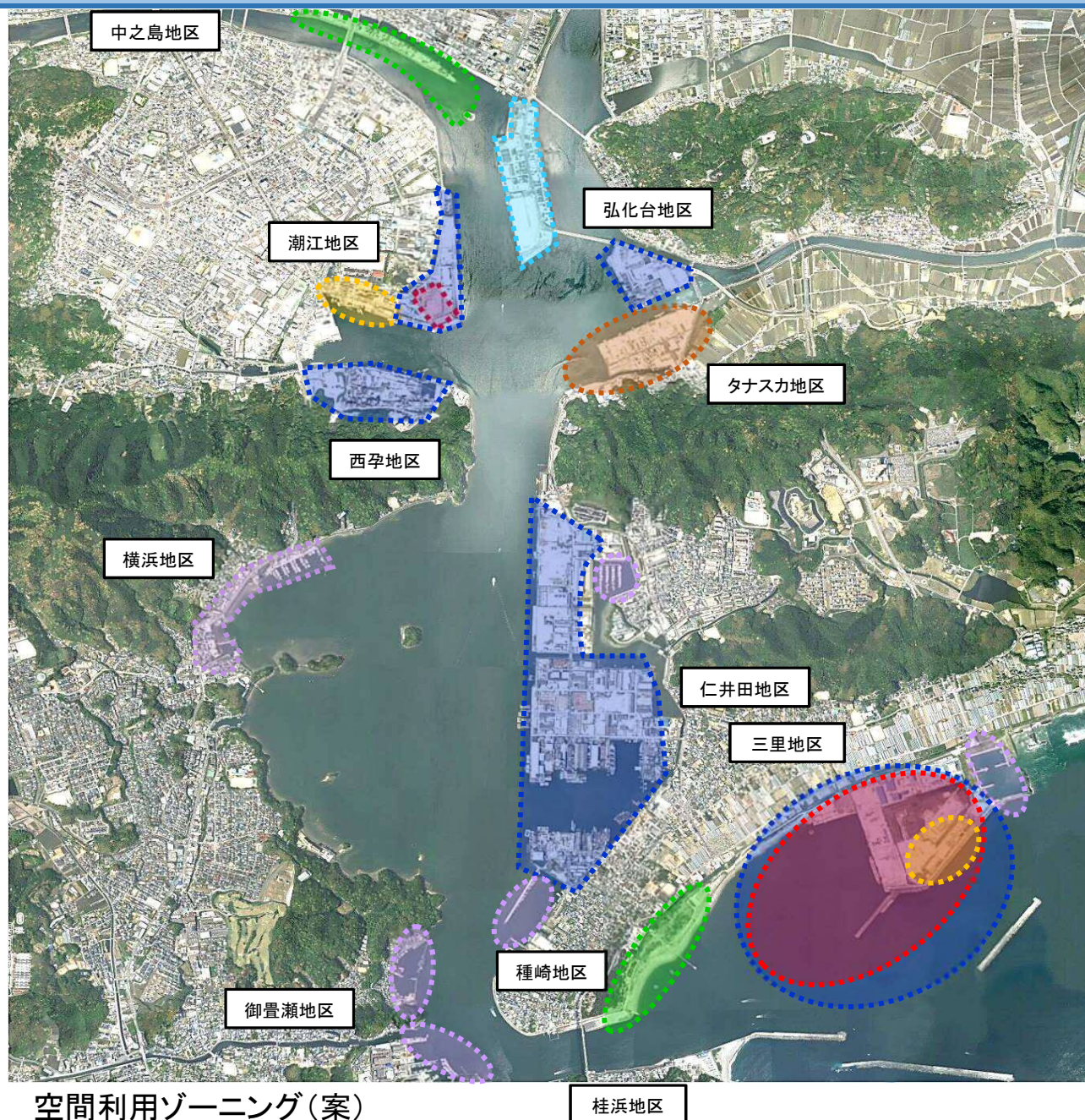
| 区分                                        | 目指す将来イメージ                                                                                                                                                                                                                         | 区分                   | 目指す将来イメージ                                                                                                              |
|-------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>【物流・産業】</b><br>国際コンテナ輸送<br>フェリー・RORO輸送 | <p>AIやIoT、自動化技術を組み合わせ、コンテナ蔵置の最適化や貨物の搬入・搬出の迅速化等を図ることにより、生産性を有するコンテナターミナルの形成</p> <p>AI等を活用した船舶の自動運航・航行支援技術の導入や高規格な荷役機械・乗降施設、自動運航船舶と連携した自動離着岸システム、ターミナル内横持ち自動運転等の導入</p> <p>シャーシにリアルタイムで動態を把握する情報通信技術を装備し、共同利用を推進することにより輸送の効率化の推進</p> | <b>発災時の情報収集・情報提供</b> | <p>IoTを活用した高度なセンシング技術やドローン等を活用し、早期に被災状況を把握する体制の構築</p> <p>大規模災害発生後に、被災状況や港湾・道路等のインフラの利用可否、代替ルート情報等を延滞なく提供できるシステムの導入</p> |



### 3. 高知港長期構想（案）

#### 3.4 空間利用ゾーニング

27



#### 【凡例】

- 物流・産業関連ゾーン
- 船溜まり関連ゾーン
- 交流拠点(にぎわい)ゾーン
- レクリエーション・緑地ゾーン
- 防災ゾーン
- エネルギーゾーン
- 水産業ゾーン

空間利用ゾーニング(案)



## 3.5 高知港長期構想における具体的取り組みの展開(ハード対策)





## 3.5 高知港長期構想における具体的取り組みの展開(ソフト対策)



## 3.6 高知港長期構想に基づく施策とスケジュール（案）

| 施策の内容 |                                               | スケジュール      |             |             |
|-------|-----------------------------------------------|-------------|-------------|-------------|
|       |                                               | 短期<br>(10年) | 中期<br>(20年) | 長期<br>(30年) |
| 物流    | 基本戦略① 地域産業の持続的な発展や競争力強化に資する港湾機能の強化とふ頭の再編      |             |             |             |
|       | ①【三里地区】西工区 港湾活動用地の造成⇒浚渫土の有効活用(維持管理費等コスト削減)    | →           |             |             |
|       | ②【三里地区】西工区 国際物流ターミナル整備（バルク貨物への対応）             |             | →           | →           |
|       | ③【三里地区】国際物流ターミナル整備(仮防波堤前面)⇒既存ストックの有効活用        | →           | →           |             |
|       | ④荷役障害の解消や機会損失を防ぐための港内静穏度の向上                   | →           |             |             |
|       | ⑤県内企業のニーズにあった海陸一貫輸送システムの構築(フェリー・RoRo航路の誘致)    | →           | →           | →           |
|       | 基本戦略② 地産外商を支え、県内企業の国際競争力を強化するための国際コンテナ物流拠点の形成 |             |             |             |
|       | ①コンテナ船の大型化に対応した係留機能の強化【三里地区】-8mコンテナ岸壁の増深      | →           |             |             |
|       | ②県内の他港利用貨物を取り込むための集荷機能の向上                     | →           | →           | →           |
|       | ③農林水産物の輸出促進拠点の形成                              | →           | →           | →           |
| 交流    | 基本戦略③ クルーズ客船の受入機能や体制の強化によるクルーズ拠点の形成           |             |             |             |
|       | ①世界最大級のクルーズ客船に対応した港湾機能の強化                     | →           | →           |             |
|       | ②クルーズ客船の誘致や受入体制の充実化                           | →           | →           | →           |
|       | 基本戦略④ 地域の魅力や観光資源を活用した賑わい空間の形成                 |             |             |             |
|       | ①良好な水辺空間に市民や旅行客が集い、レジャー等を楽しむことが出来る空間の形成       | →           | →           | →           |
| 安全・安心 | ②高知港内における小型旅客船ネットワークの構築                       | →           | →           | →           |
|       | 基本戦略⑤ 安全な企業活動や安心な暮らしを維持するための港湾の防災機能強化         |             |             |             |
|       | ①防災拠点港としての機能強化【三里地区】防波堤の延伸・粘り強い化の早期完成         | →           | →           |             |
|       | ②防災拠点港としての機能強化【三里地区】耐震強化岸壁の整備                 |             | →           | →           |
|       | ③訓練等を通じた実効性の担保による 港湾BCPの充実（BCM実施）             | →           | →           | →           |
|       | 基本戦略⑥ 既存ストックの適正管理と有効活用するための戦略的ストックマネジメントの推進   |             |             |             |
|       | ①適切な維持管理計画の更新、維持管理計画に基づいた点検・補修・長寿命化工事の実施      | →           | →           | →           |
|       | ②利用状況や将来的な利用計画に応じた機能の集約や見直しによる埠頭の再編           | →           | →           | →           |
|       | 基本戦略⑦ 情報通信技術を活用した港湾のスマート化・強靱化への対応             |             |             |             |
|       | ①情報通信技術の積極的活用                                 | →           | →           | →           |



## 参考資料

高知港長期構想検討委員会第一回委員・幹事合同委員会より抜粋

（高知港貨物取扱量、利用状況 他）・・・・・・・・・・ 3 2

第3期高知県産業振興計画（PR版）より抜粋・・・・・・・・・・ 4 1

# 高知港の概要①【各地区の特徴】



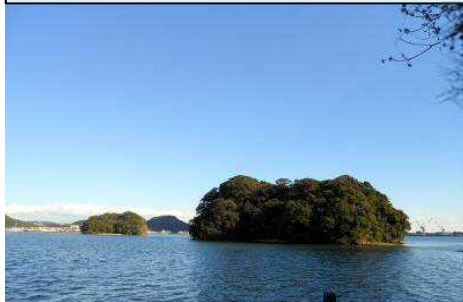
桜の名所でもある堀川PB(120隻収容)



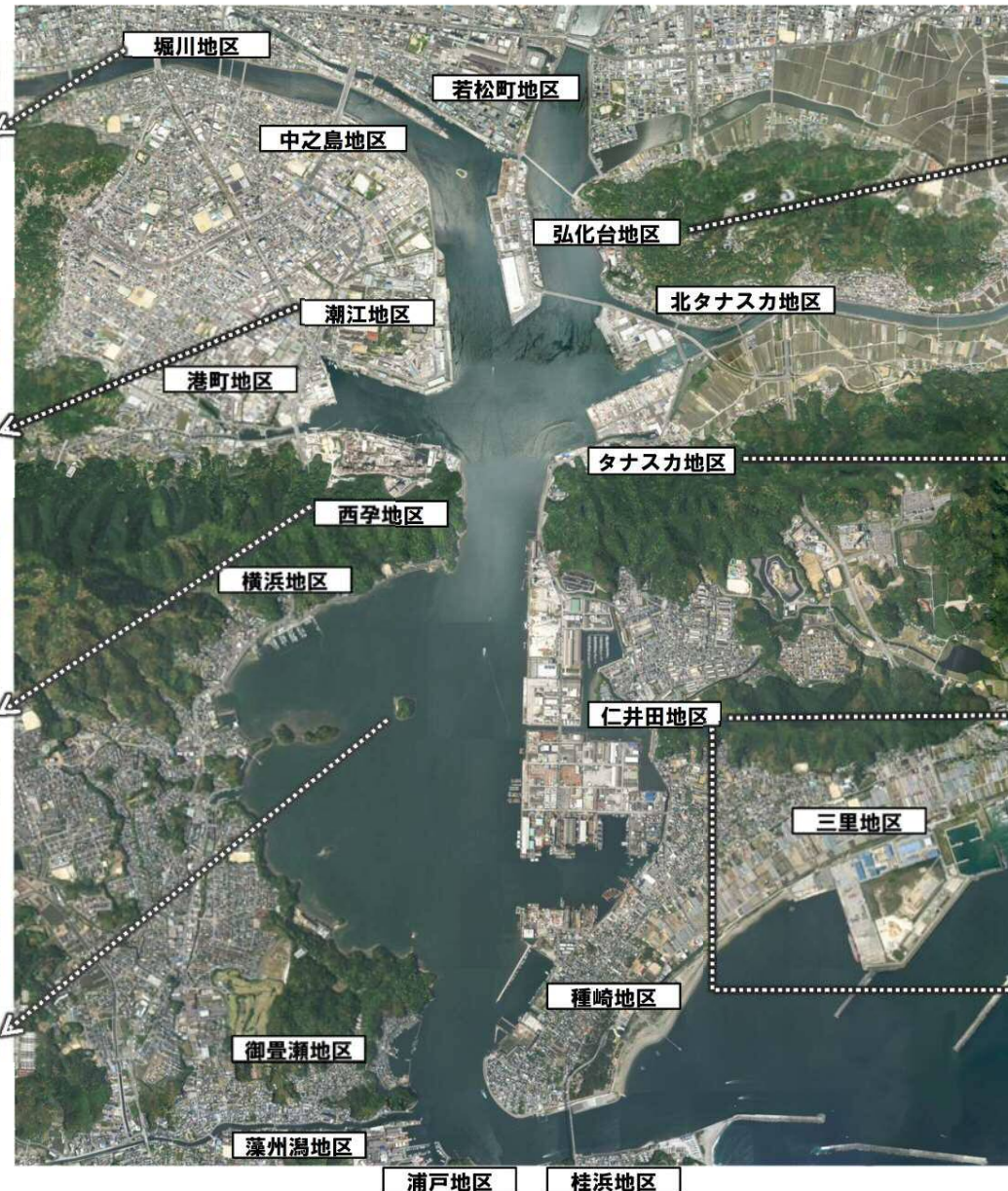
内貿の輸送拠点（PKS荷役状況）



石炭やPKSを燃料とした  
火力・バイオマス発電所



浦戸湾に浮かぶ良好な景観を形成する  
玉島



日本で2番目に長い歴史を持つ  
中央卸売市場



県内需要の90%以上の石油を取扱う  
石油輸送基地



クレーンが活気のある景観を呈する  
複数の造船所



ブレイザーボート施設として整備された  
仁井田ポートパーク



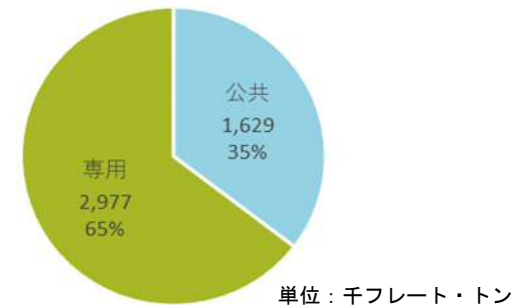
## 高知港の概要②【三里地区の特徴】



# 取扱貨物の現況①【高知港】

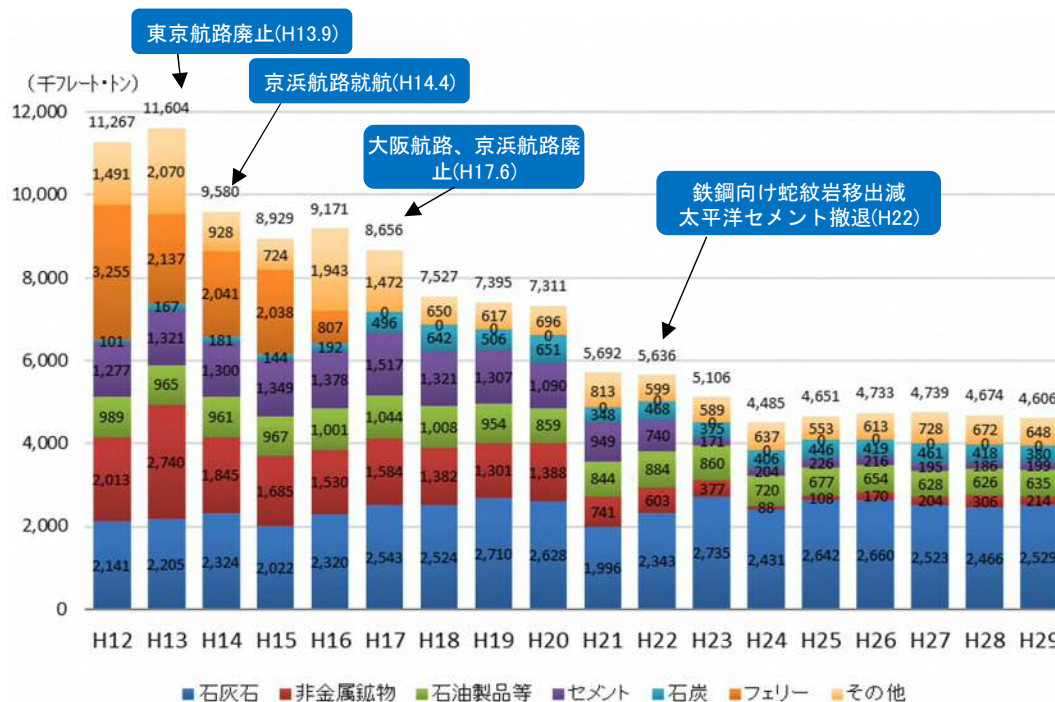
- 高知港全体の取扱貨物量は、平成12年から平成13年までは1,000万フレート・トン以上を維持していたが、平成14年以降は減少傾向で、平成25年から平成29年にかけては約460～470万フレート・トンで横ばい傾向
- 公共・専用別での取扱貨物は、公共貨物が35%、専用貨物が65%
- 輸出、移出貨物の第1位は石灰石（輸出：22% 移出：91%）、輸入の第1位は石炭（61%）、移入の第1位はその他石油（41%）

公共・専用別／輸移出入別取扱貨物内訳



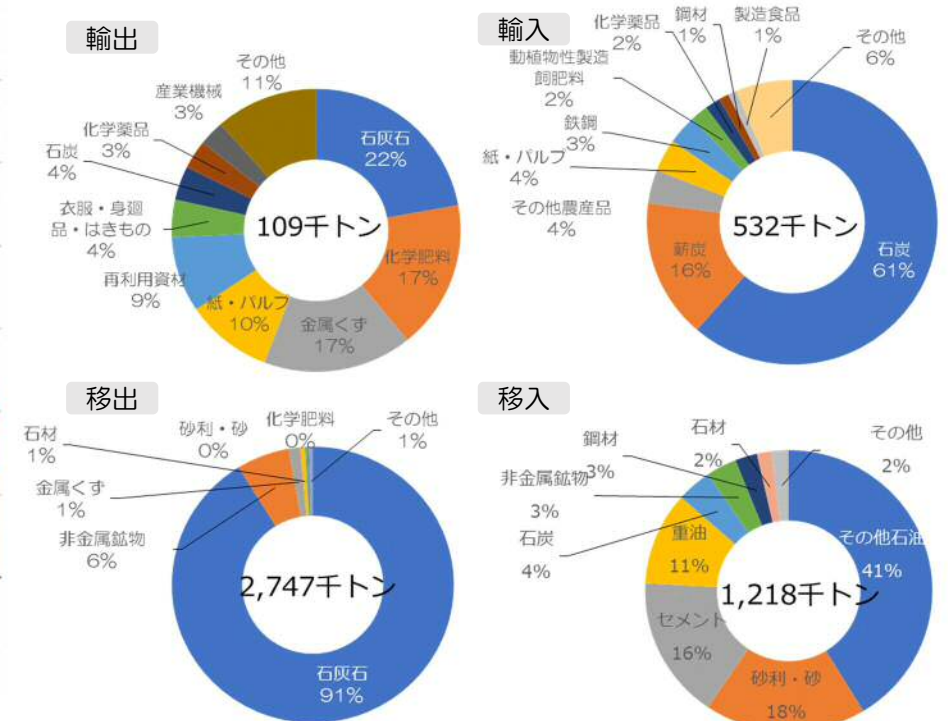
資料：高知県港湾・海岸課資料を基に作成

高知港取扱貨物量の推移(平成12年～平成29年)



資料：高知県港湾・海岸課資料を基に作成

輸出入・移出入別取扱貨物の割合(2017年)



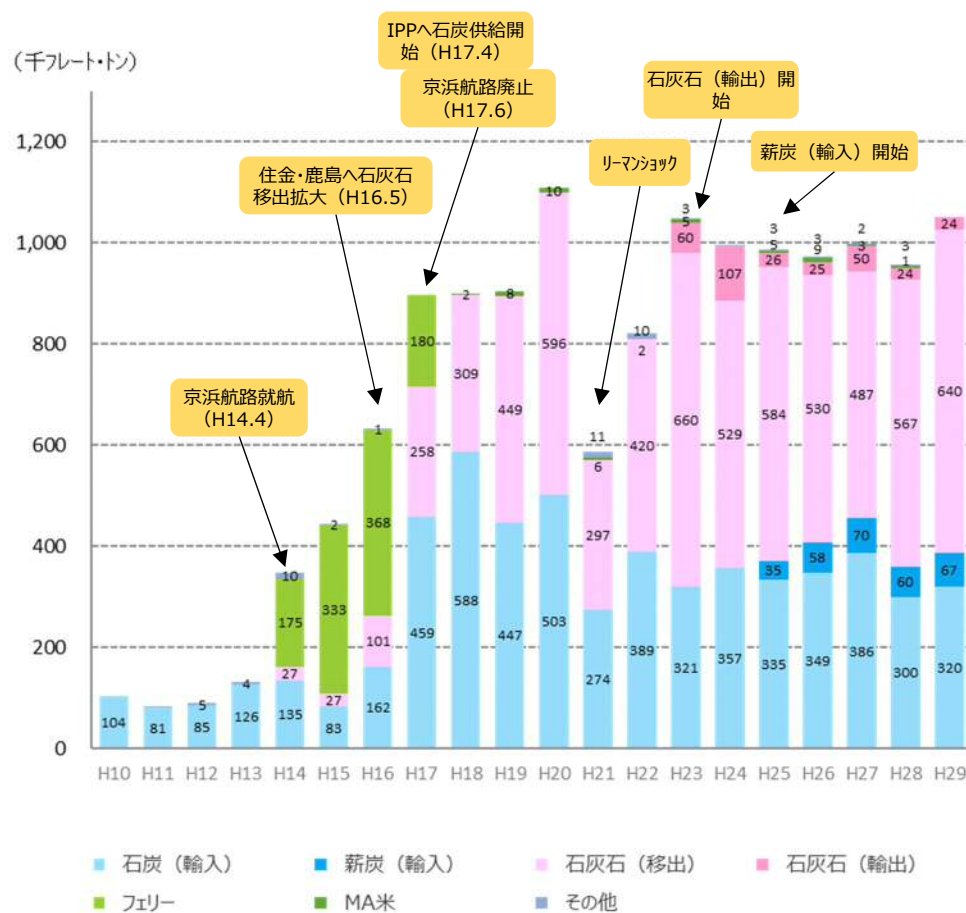
資料：高知県港湾・海岸課資料を基に作成



## 取扱貨物の現況②【高知新港】

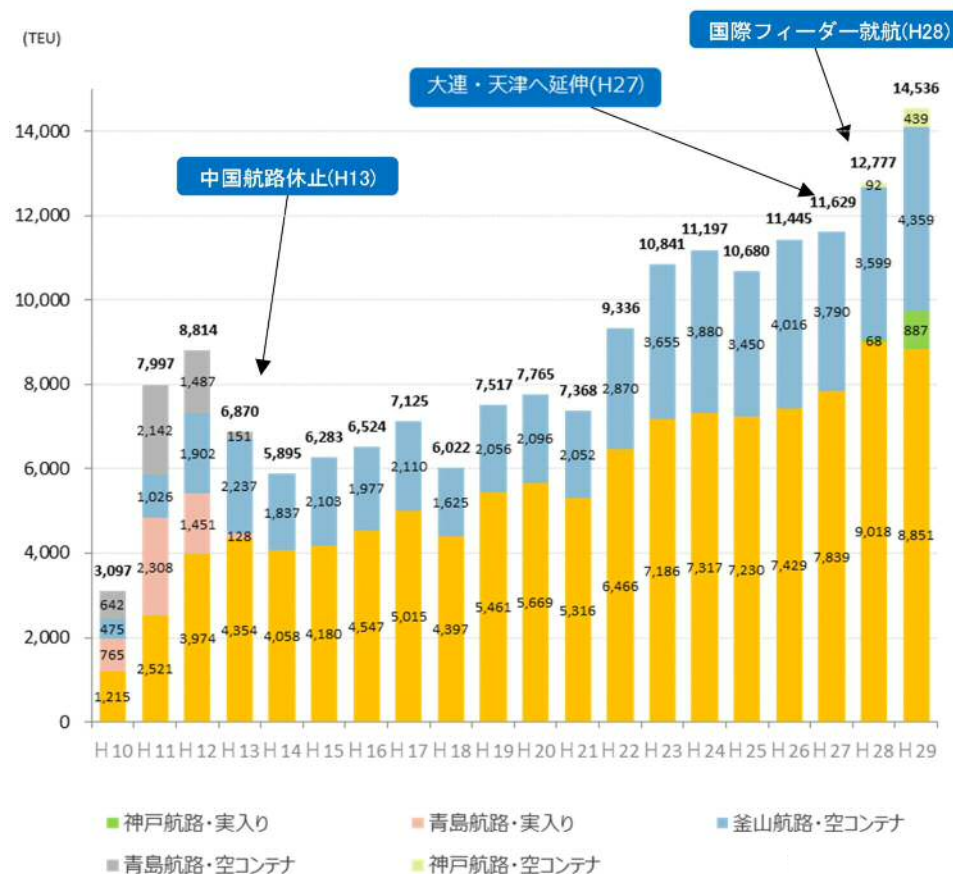
- バルク貨物量は平成21年のリーマンショック時に大幅に減少したが、近年はほぼ横ばいで推移
- コンテナ貨物量は平成14年以降は増加傾向にあり、平成29年は過去最大取扱量の14,536TEU

バルク貨物量の推移(フェリーを含む)



資料：高知県港湾・海岸課資料

コンテナ貨物量の推移



資料：高知県港湾・海岸課資料

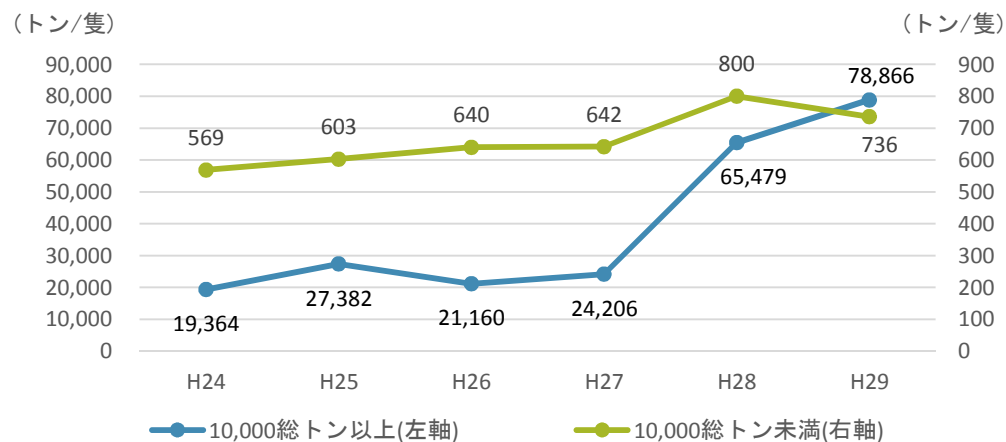
- 入港船舶隻数は年間4,000隻超と横ばい
- 客船寄港回数は平成28年以降の増加が顕著で、平成30年は34回の寄港予定
- 入港船舶の総トン数は平成28年以降は増加傾向
- 大型クルーズ船の寄港の増加に伴い、船型別1隻あたりの総トン数は、10,000総トン数以上の船舶が平成28年以降増加

入港船舶隻数・総トン数の推移



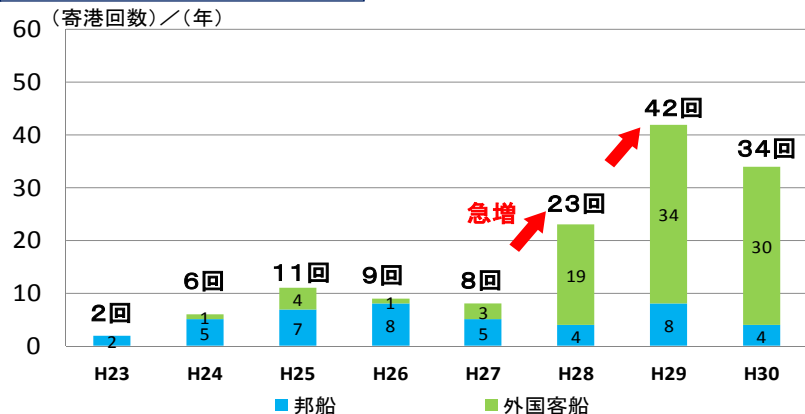
資料：高知県港湾・海岸課資料

船型別1隻あたりの総トン数の推移



資料：高知県港湾・海岸課資料

高知新港客船寄港回数の推移



※H30は11月27日現在

主な大型入港船舶

| 種別 | 船名               | 総トン数等            |
|----|------------------|------------------|
| 客船 | クァンタム・オブ・ザ・シーズ   | L=347.75m、喫水8.8m |
|    | オペレーション・オブ・ザ・シーズ | L=347.75m、喫水8.5m |
|    | ノルウェー جان・ジョイ    | L=333.46m、喫水8.7m |

資料：高知県港湾・海岸課資料

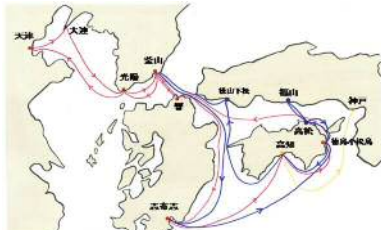




## コンテナ貨物の現況

- 平成27年に週2便ある釜山航路のうち1便が大連・天津までに延伸、平成28年には神戸への内港フィーダー便が就航し、計週3回の定期コンテナ航路が実現した
- 取扱品目は、外航航路では輸出は「化学肥料」、輸入は「その他農産品」、フィーダー航路では、移出、移入ともに「紙・パルプ」の割合が多い
- コンテナ船の大型化や老朽化対策として、ガントリークレーンを新規整備中

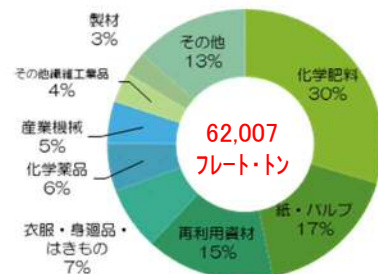
## 高知新港コンテナ航路



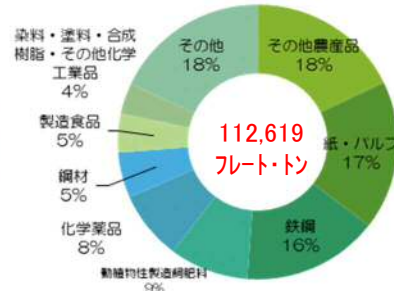
| 香港開港 |                                                                                                   |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①    | 釜山(月)→志布志(火)→徳島(火)→福山(木)<br>→高松(木)→高知(金)→徳山(土)→釜山(日)                                              |
| ②    | 天津(火・水)→大連(木・金)→光陽(日)→釜山・釜山新港(月)<br>→博多・博(火)→志布志(火)→高知(木)→徳島(金)→曾(土)<br>→釜山・釜山新港(日)→光陽(月)→天津(火・水) |
| ③    | 神戸(月)→高知(火)→神戸(水)                                                                                 |

## 外航航路・フィーダー航路別取扱貨物の割合（2017年）

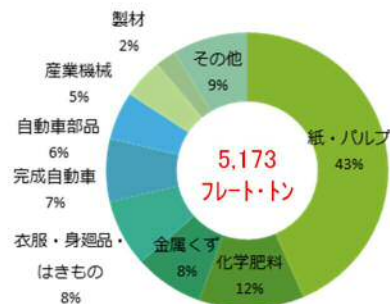
## 輸出（外航航路）



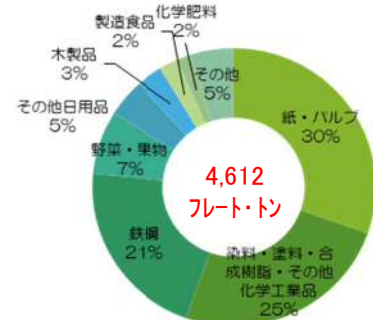
## 輸入（外航航路）



## 移出（フィーダー航路）



## 移入（フィーダー航路）



資料：高知県港湾・海岸課資料より

## 高知新港 コンテナ関連施設（三里地区）



## ガントリークレーンでの荷役作業



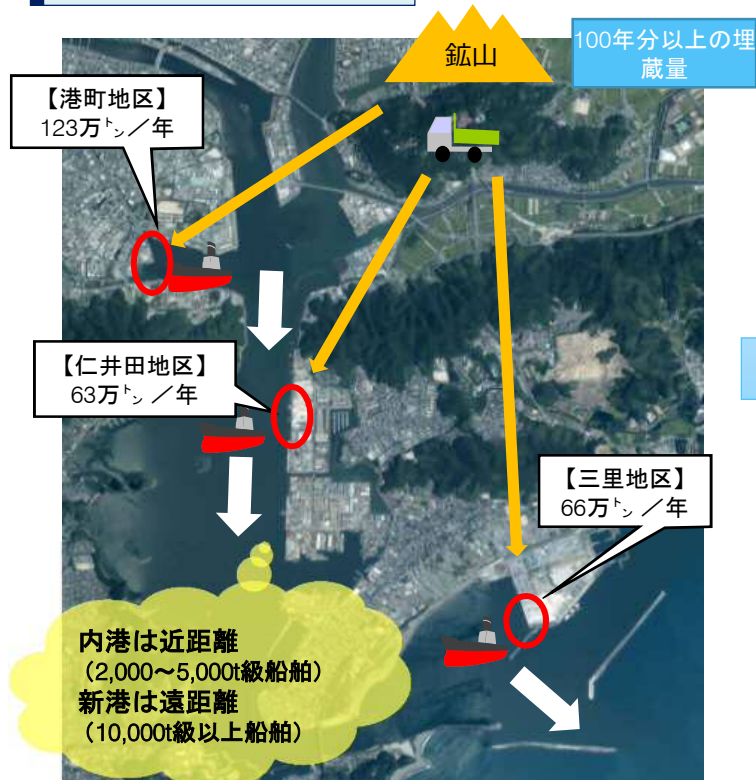
## コンテナ施設要目

|           |                 |
|-----------|-----------------|
| 岸壁        | -8.0m岸壁<br>240m |
| ターミナル面積   | 15,000㎡         |
| コンテナヤード   | 32,000㎡         |
| ガントリークレーン | 30.5t吊 1基       |
| リーチスタッカー  | 45.0t吊 1台       |
| リーファープラグ  | 60口             |

## バルク貨物の現況①【石灰石】

- 高知港背後には良質かつ豊富な石灰石鉱山があるため、高知港では石灰石を252.9万t（平成29年）取り扱っており、これは高知港全体の取扱貨物量の約50%以上を占めている
- 高知港からの石灰石は、全国の製鉄所やセメント工場並びに海外の製鉄所にも輸出されている
- 他鉱山の枯渇・低品質化を背景に国内鉄鋼所向けに増産する計画がある

高知港における石灰石の流れ

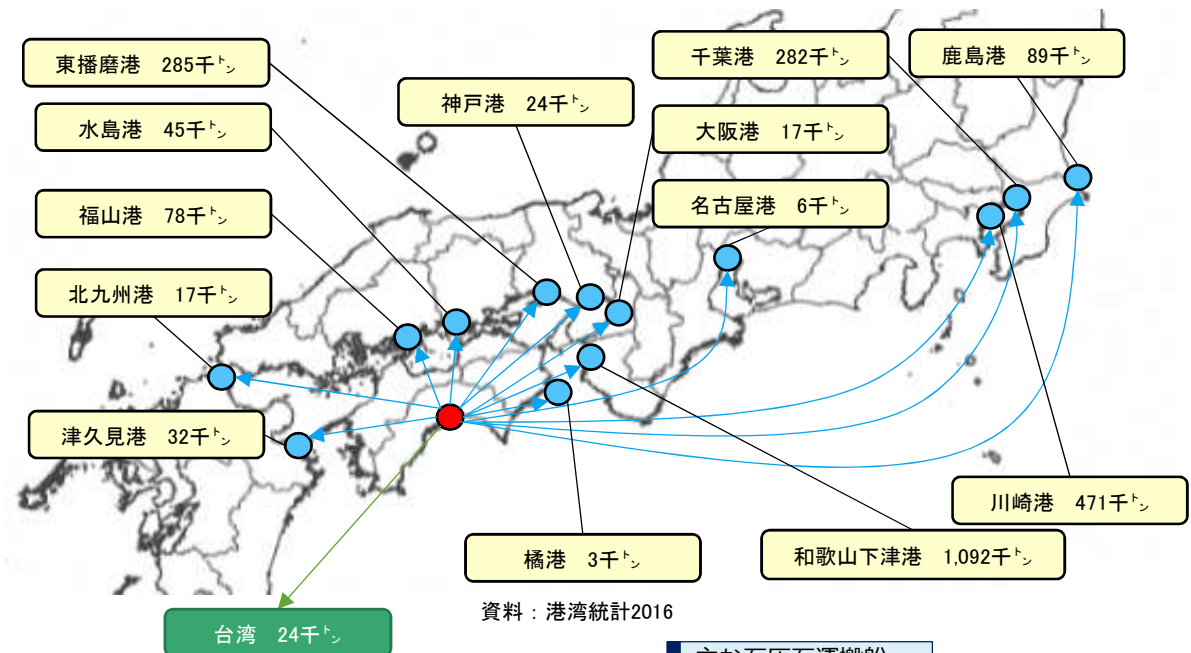


石灰石の用途別使用量（参考）

|         | 生産量     | 用途別    |        |        |        |        | 輸出    | 出荷計     | 鉄鋼への使用率 |
|---------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|---------|---------|
|         |         | セメント   | 骨材     | 鉄鋼     | 石灰     | その他    |       |         |         |
| H27(全国) | 142,745 | 61,758 | 30,815 | 19,930 | 9,950  | 15,018 | 5,081 | 142,552 | 14%     |
| H28(全国) | 139,138 | 61,157 | 29,729 | 19,403 | 10,387 | 14,050 | 4,853 | 139,581 | 14%     |
| H29(全国) | 140,971 | 62,620 | 30,397 | 18,902 | 10,638 | 14,121 | 5,005 | 141,683 | 13%     |
| H29(高知) | 17,054  | 4,959  | 2,859  | 8,388  | 475    | 687    | 2,614 | 17,369  | 48%     |

資料：石灰石鉱業協会

石灰石の移出量と移出先



主な石灰石運搬船

|    | 船舶名   | 全長(m) | 重量(DWT) | 喫水  |
|----|-------|-------|---------|-----|
| 移出 | 拓洋丸   | 123   | 10,750  | 7.5 |
|    | 八戸丸   | 163   | 21,000  | 8.4 |
| 輸出 | RYOGA | 158   | 24,959  | 9.9 |

石灰石荷役の状況

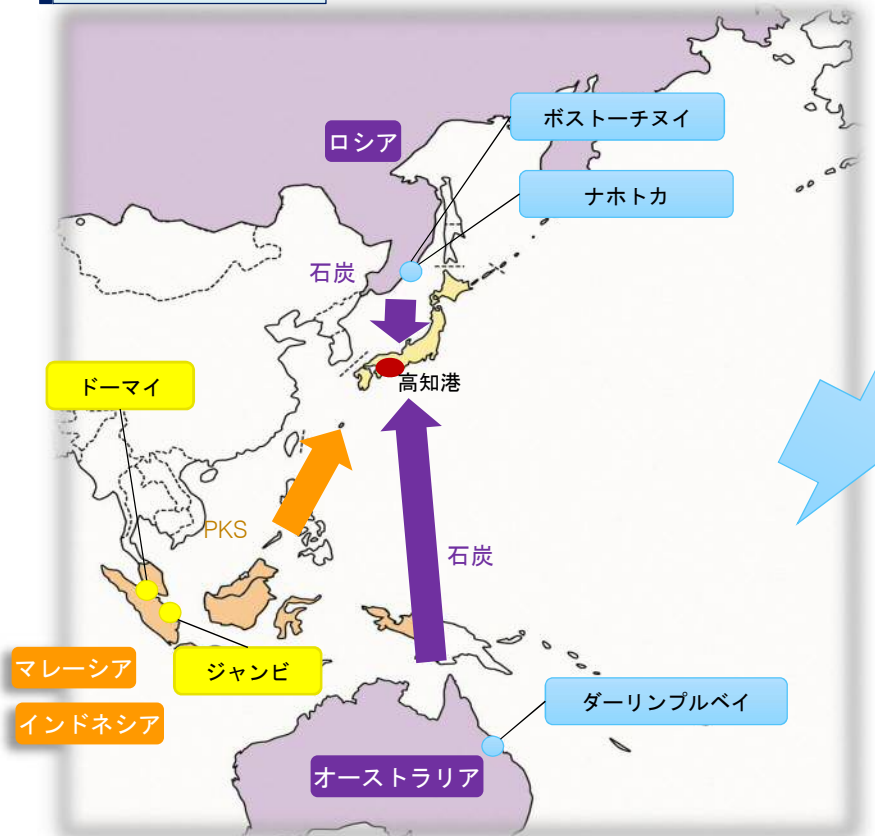




## バルク貨物の現況②【石炭・PKS】

- IPP事業として、西予地区に火力発電所がありロシアやオーストラリアから石炭を38万t（平成29年）輸入
- 同じく西予地区にはインドネシアやマレーシアからPKS（ヤシ殻）を8万t（平成29年）輸入し、PKSを燃料とするバイオマス発電所も稼働

石炭・PKS輸入経路図



品目別最大船舶要目

| 貨物  | 航路      | 船舶名           | 全長(m) | 重量(DWT) | 喫水   |
|-----|---------|---------------|-------|---------|------|
| 石炭  | ロシア     | Laurel Ace    | 169   | 28,397  | 9.8  |
|     | オーストラリア | TTM.HARMONY   | 190   | 55,873  | 12.8 |
| PKS | インドネシア  | TEMIS TRIUMPH | 131   | 17,590  | 9.9  |
|     | マレーシア   | MATSUSHIMA    | 125   | 13,804  | 9.2  |

IPP事業

PKS荷役状況



石炭荷役状況



石炭：小型船へ積替後、内港へ入港  
PKS：一定量小型船へ荷卸し後、本船が内港へ入港

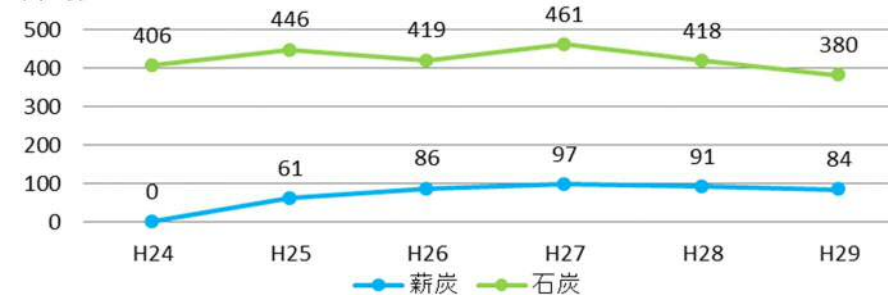
火力・バイオマス発電所



※PKSを燃料としたバイオマス発電所は、当地区発電所が日本初

石炭・PKS 貨物量推移

(千t)





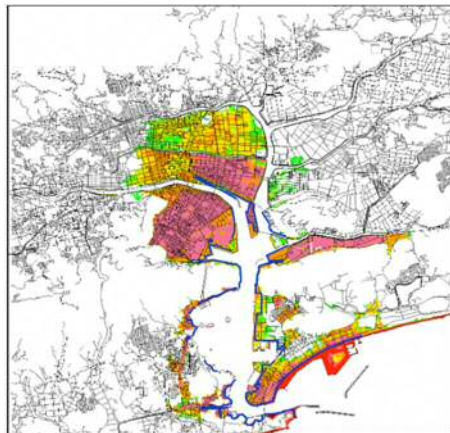
- 最大クラスの地震では高知港湾口で10.0～15.0m、浦戸湾内では3.0～5.0mの津波高が想定されている
- 高知市は、県全体の約5割（約33万人）の人口が集中しており、特に浦戸湾周辺には、行政機関、学校及び病院等の公共施設が多数立地していることや南海トラフ地震から高知市を守るとは、県全体の復旧復興につながることから地震津波対策の整備が急務である

三重防護による対策で  
防災、減災を目指す

#### 三重防護事業の概要

- ・ 第1ライン：第一線防波堤  
【効果】津波エネルギーの減衰、高知新港の港湾機能の確保
- ・ 第2ライン：湾口地区 津波防波堤、外縁部堤防等  
【効果】津波の侵入や北上の防止・低減
- ・ 第3ライン：浦戸湾地区 内部護岸等  
【効果】護岸の倒壊や背後地浸水の防止等

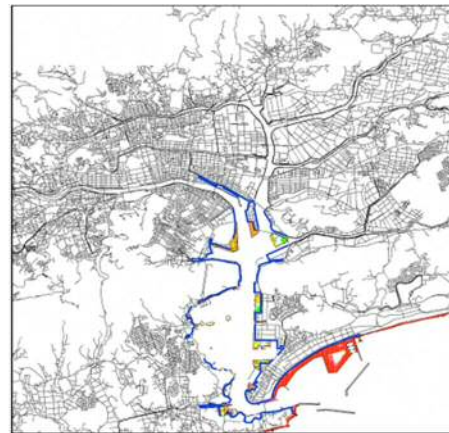
#### レベル1津波による浸水予測範囲



※地盤高さは、H24.3高知県測量データを使用



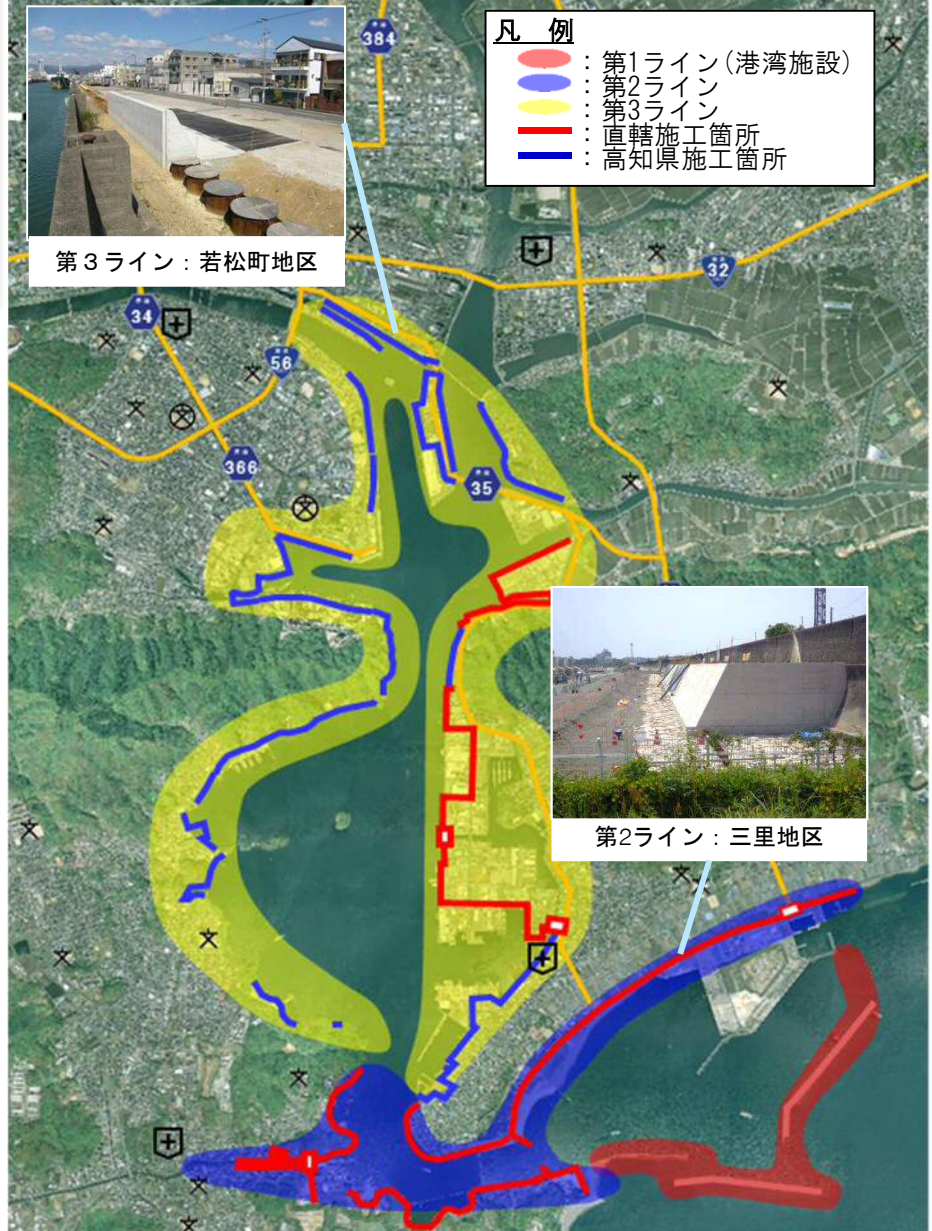
整備後



※対策完了後の浸水範囲は堤外地

- ・ 発生頻度の高い津波に対しては堤内地の浸水を防護し、レベル1津波を超える津波に対しては浸水範囲及び浸水深を減少させるとともに、浸水するまでの時間を遅らせる。

#### 高知港海岸における三重防護の概要





### Ⅲ 第3期産業振興計画の全体像

第3期産業振興計画ver.3では、現状・課題等（p17, 18参照）を踏まえ、8つの基本方向に再整理  
完全雇用状況下における持続的な拡大再生産の創出に向け、『地産外 商』の施策群をさらにパワーアップ！



#### 1 成長に向けた「メインエンジン」をさらに強化！

**基本方向1** 継続的に新たな付加価値を生み出す仕組みを意図的に構築

【三次産業、全般】

- 「志国高知 幕末維新博」第二幕の展開
- 自然・体験型観光の推進（ポスト幕末維新博）
- IT・コンテンツ関連産業の振興・関連産業への生産性向上等の波及
- 課題解決型産業創出（ものづくり地産地消・外商の推進）  
例）第一次産業等の生産性向上プロジェクト
- 地域アクションプランのさらなる推進

【二次産業】

- ものづくり力、商品力アップに向けた支援の強化  
・高知県産業振興センター  
・工業技術センター  
・食のプラットフォーム 等
- 設備投資への支援の強化

【一次産業】

- 次世代型こころ新施設園芸システムのさらなる普及
- IoTやAI技術を活用したNext次世代農業等の展開
- CLTの普及、A材（良質材）の高付加価値化
- 養殖生産ビジネスの拡大

等

**基本方向2** 交易の範囲のさらなる拡大

【三次産業】

- インバウンド観光のさらなる強化

【二次産業】

- 外商活動の全国展開のさらなる推進  
・高知県地産外商公社  
・高知県産業振興センター（再掲）
- 海外への輸出の本格展開

【一次産業】

- A材（良質材）の販売促進・外商体制の強化
- 高知家の魚 応援の店と連携した外商活動の強化

等

#### 2 成長の「壁」を乗り越える！

**基本方向3** 担い手の確保策の抜本強化

1) 雇用環境の改善

- 働き方改革の促進  
・高知県働き方改革推進支援センター（国）

2) アクティブに働きかける  
（移住希望者、新規卒業者、女性・若者・高齢者等）

- マッチング機能の強化  
・高知県移住促進・人材確保センター  
・高知家の女性しごと応援室  
・ジョブカフェこころ  
・高知県事業引継ぎ支援センター（国）

○担い手の受け皿となる機能の強化

- ・Uターン就職サポートガイド、県外大学との就職支援協定、高知の仕事を紹介するポータルサイト
- ・IT・コンテンツアカデミー
- ・農業担い手育成センター
- ・農業大学校
- ・畜産試験場
- ・林業大学校

等

**基本方向4** 省力化・効率化の徹底に向けたサポートの強化

【全般】

- 課題解決型産業創出（ものづくり地産地消・外商の推進）  
例）第一次産業等の生産性向上プロジェクト（再掲）

【二次産業、三次産業】

- 設備投資への支援の強化（再掲）

【一次産業】

- IoTやAI技術を活用したNext次世代農業等の展開（再掲）
- 森林組合の生産工程の改善、高性能林業機械の導入支援、路網の整備促進
- スマート漁業の推進

等

#### 3 成長を支える取り組みを強化！

**基本方向5** 起業や新事業展開の促進 **新規事業のたゆまぬ創出**

- ・こうちスタートアップパーク
- ・土佐まるごとビジネスアカデミー
- IT・コンテンツ関連産業の振興（再掲）、IT・コンテンツ関連産業と他産業との融合等による新事業創出

等

**基本方向6** 地域産業クラスターの形成 **多様な仕事を地域地域に創出**

- 20のクラスタープロジェクト（H30.3時点）の着実な推進
- 地域経済の活性化拠点の整備促進

等

**基本方向7** 人材育成・確保の取り組みの充実 **本県経済発展の礎となる取り組み**

【三次産業、全般】

- ・高知県移住促進・人材確保センター（再掲）
- ・IT・コンテンツアカデミー（再掲）
- ・土佐の観光創生塾
- ・土佐まるごとビジネスアカデミー（再掲）
- ・文化人材育成プログラム

【二次産業】

- ・工業技術センター（再掲）
- ・食のプラットフォーム（再掲）
- ・高等技術学校

【一次産業】

- ・農業担い手育成センター（再掲）
- ・農業大学校（再掲）
- ・畜産試験場（再掲）
- ・林業大学校（再掲）

等

**基本方向8** 金融機関等との連携による事業戦略の策定と実行支援の強化 **各般の取り組みの土台**

【三次産業、全般】

- ・商店街等地域の事業者、地域の観光事業者等

【二次産業】

- ・ものづくり企業、食品加工事業者

【一次産業】

- ・中山間農業複合経営拠点・集落営農法人、製材事業体、漁業経営体

【地域アクションプラン】

等



## 4 産業振興計画の取り組みを検証するための数値目標



目指す将来像

地産外商が進み、地域地域で若者が誇りと志を持って働ける高知県

目指す将来像の実現！

戦略

地産外商をさらに強化し、その流れをより力強い「拡大再生産」の好循環へ！



計画の実効性をさらに高めるため、PDCAサイクルにより、数値目標の到達状況を定期的に点検・検証しています。

目標年次の意味

- ◆4年後目標 (H31年度末)  
第3期計画の最終年度における達成目標
- ◆6年後目標 (H33年度末)  
第2期計画で設定した10年目標の検証
- ◆10年後目標 (H37年度末)  
第3期計画における中長期的な展望の目標 (あくまで目安)

若者の県外流出を防止する、県外からの流入を促進する

計画全体を貫く目標 ①

総合戦略に掲げた目標（2040年に年間1,000人の社会増）の達成に向けて、  
■4年後に人口の社会増減（転入数と転出数の差による増減）をゼロにする  
※H27：△2,265人、H28：△1,770人、H29：△1,605人

6年後、10年後：  
社会増減のプラスを定着させる

若者が志を持って打ち込める魅力ある仕事をつくる

計画全体を貫く目標 ②

■4年間で4,000人のできるもの（を）を創出  
定量的に把握できない地産外商の拡大による雇用創出が見込まれる  
※第1期・第2期計画雇用創出6,139人  
期間における（定量的に把握できるもの）  
雇用（定量的に把握できるもの）  
ものの観光振興や雇用創出が見込まれる

6年間：雇用創出 6,000人  
10年間：雇用創出10,000人  
※いずれもH28からの累計

県際間の収支を改善する

計画全体を貫く目標 ③

■産業振興計画の取り組みによる4年後の移輸出額の増加効果をプラス700億円にする  
※H23年 移輸出額 6,743億円  
県際収支（移輸出額－移輸入額）△6,528億円

6年後：プラス1,000億円  
10年後：プラス1,600億円  
※いずれも産業連関表を用いた推計値

県民所得の向上

県民所得については、結果の公表が2年遅れであること、外部要因の影響を大きく受けることから、目標として掲げていませんが、計画の推進によって「県民所得」の着実な伸びを目指します。

◎全国一学びの機会が多い県を目指す

学びの段階から事業化まで実践者のチャレンジ

の多様なサポートにより、エンジを応援する

◎全国一サポート体制が整った県を目指す

| 分野の目標年次    | 農業分野                         | 林業分野                                     | 水産分野                       | 商工業分野                          | 観光分野                         | 地産地消・地産外商戦略（食品分野）            | 移住促進                  |
|------------|------------------------------|------------------------------------------|----------------------------|--------------------------------|------------------------------|------------------------------|-----------------------|
| 分野を代表する目標  | 地域で暮らし稼げる農業                  | 山で若者が働く、全国有数の国産材産地                       | 若者が住んで稼げる元気な漁村             | 拡大再生産による雇用拡大と、地域の賑わいによる活気ある商工業 | 世界に通用する「本物と出会う高知観光」の実現       | ・素材を生かした加工立県<br>・県産品が全国ブランドに | 移住者と一緒に創る元気な地域        |
| 目標項目       | 農産物産出額等<br>農業生産量<br>※県産品出荷高  | 原木生産量<br>木材・木製品製造業出荷額等                   | 漁業生産額<br>※水産加工品出荷額         | 製造品出荷額等                        | 県外観光客<br>入込数<br>観光消費額        | 食料品製造業<br>出荷額等               | 県外からの年間移住者            |
| 10年後 (H37) | 1,150億円以上<br>13.3万t以上        | 90万m <sup>3</sup> 以上<br>256億円以上          | 490億円以上<br>220億円以上         | 7,000億円以上                      | 470万人以上<br>1,410億円以上         | 1,085億円以上                    | 3期計画の取り組みによる成果を踏まえて設定 |
| 6年後 (H33)  | 1,090億円以上<br>12.2万t以上        | 81万m <sup>3</sup> 以上<br>232億円以上          | 476億円以上<br>203億円以上         | 6,400億円以上                      | 450万人以上<br>1,300億円以上         | 1,035億円以上                    | 1,000組以上              |
| 4年後 (H31)  | 1,060億円以上<br>11.6万t以上        | 78万m <sup>3</sup> 以上<br>220億円以上          | 460億円以上<br>200億円以上         | 6,000億円以上                      | 435万人以上<br>1,230億円以上         | 1,000億円以上                    | 816組 (H29)            |
| 現状         | 1,152億円 (H28)<br>9.3万t (H28) | 66.8万m <sup>3</sup> (H29)<br>207億円 (H28) | 420億円 (H28)<br>204億円 (H27) | 5,675億円 (H28)                  | 440万人 (H29)<br>1,126億円 (H29) | 1,080億円 (H28)                | 403組 (H26)            |
| 3期計画 発射台   | 965億円 (H26)<br>9.5万t (H26)   | 61万m <sup>3</sup> (H26)<br>204億円 (H26)   | 446億円 (H25)<br>173億円 (H25) | 5,260億円 (H26)                  | 408万人 (H27)<br>1,075億円 (H26) | 892億円 (H26)                  | 120組 (H23)            |
| 2期計画 発射台   | 933億円 (H22)<br>—             | 40.4万m <sup>3</sup> (H22)<br>150億円 (H22) | —<br>160億円 (H21)           | 4,681億円 (H22)                  | 388万人 (H23)<br>953億円 (H23)   | 861億円 (H22)                  |                       |



## 農業分野の展開イメージ ～地域で暮らし稼げる農業～

| 分野を代表する目標 | 農業産出額等 (農林水産部発表) |           | 出発点 (H26) |          | 現状 (H28) |           | 4年後 (H31) |           | 6年後 (H33) |            | 10年後 (H37) |  |
|-----------|------------------|-----------|-----------|----------|----------|-----------|-----------|-----------|-----------|------------|------------|--|
|           | 農業生産量            |           | 965億円     |          | 9.5万t    |           | 11,152億円  |           | 10,060億円  |            | 10,090億円   |  |
|           | 野菜 (主要11品目)      | 出発点 (H26) | 9.5万t     | 現状 (H29) | 9.3万t    | 4年後 (H31) | 11.6万t    | 6年後 (H33) | 12.2万t    | 10年後 (H37) | 13.3万t     |  |
|           | 果樹 (主要2品目)       | 出発点 (H26) | 2.12万t    | 現状 (H29) | 2.08万t   | 4年後 (H31) | 2.45万t    | 6年後 (H33) | 2.47万t    | 10年後 (H37) | 2.52万t     |  |
|           | 花き (主要3品目)       | 出発点 (H26) | 2,251万本   | 現状 (H29) | 2,085万本  | 4年後 (H31) | 2,655万本   | 6年後 (H33) | 2,764万本   | 10年後 (H37) | 3,054万本    |  |
|           | 畜産 (土佐あかし飼育頭数)   | 出発点 (H26) | 1,728頭    | 現状 (H29) | 2,236頭   | 4年後 (H31) | 2,660頭    | 6年後 (H33) | 3,100頭    | 10年後 (H37) | 4,020頭     |  |

### 柱1 生産力の向上と高付加価値化による産地の強化

- 次世代型こち新施設園芸システムの普及推進**
- 学び教えあう場の活用による環境制御技術の普及
  - 環境制御技術のレベルアップと新技術・省力化技術の研究開発
  - 次世代型ハウス等の整備支援
  - Next次世代こち新施設園芸システムへの進化
  - 地元と協働した企業の農業参入の推進
  - オランダ交流を活かした先進技術の普及推進

#### 環境保全型農業の推進

- IPM技術の普及拡大 ○ GAPの推進
- 有機農業の推進 ○ 省エネルギー対策の推進

#### 園芸品目別総合支援

- 野菜園芸品目の総合戦略支援 (ナス、コウ、露地野菜等)
- 特産果樹生産振興 (ユズ、文旦)
- 花き生産振興 (コリ、トルコギキョウ、グロリアサ)

#### 大規模施設園芸産地

高野高を中心とする大規模次世代型ハウス

低コスト型施設園芸等の中規模次世代型ハウス

産地型ハウスへの環境制御技術導入

環境制御技術普及員によるサポート  
学び教えあう場

### 水田農業の振興

- 県産米のブランド化の推進
- 稲米の生産振興
- 水田の有効活用への転換

### 畜産の振興

- 土佐和牛 ○ 養豚 ○ 土佐ジロー
- 土佐はちきん地 ○ 養鶏
- 酪農
- 食肉センターの整備
- 次世代こち新と確立

### 6次産業化の推進

- 農産物加工の振興
- 直販所支援の強化

### 柱2 中山間地域の農業を支える仕組みの再構築

#### 中山間農業複合経営拠点の整備推進

- 中山間農業複合経営拠点の県内への拡大



#### 集約型農業の推進

- 集約型農業の振興
- 集約型農業と法人化へのステップアップ

#### 中山間に適した農産物等の生産

- 土佐茶産地の振興
- 薬用作物の振興

#### 日本型直接支払制度の推進

- 中山間地域等直接支払制度の推進
- 多面的機能支払制度の推進

#### 事業戦略の策定・実行支援

- 事業戦略による好循環のシステム構築

### 柱5 地域に根差した農業クラスタの形成



生産増⇒所得向上⇒担い手増  
の好循環を拡大再生産へ！

担い手の確保  
& 経営体の強化！

### 柱4 生産を支える担い手の確保・育成

#### 新規就農者の確保・育成

- U・Iターン就農者の確保に向けた産地提案型担い手確保対策の強化
- 畜産の担い手確保に向けた体制の強化
- 雇用就農者の確保に向けた取り組みの強化
- 農業大学校・農業担い手育成センターの充実・強化
- 実践研修・営農定着への支援

#### 家族経営体の強化及び法人経営体の育成

- 家族経営体の経営発展に向けた支援
- 法人経営体への誘導と経営発展への支援
- 経営体を支える労働力の確保と省力化の推進

#### 農地の確保

- 担い手への農地集積の加速化
- 農地団地の整備促進
- 国営緊急農地再編整備事業の推進



労働力確保の取り組みづくり

生産の強化！

施設園芸団地を核に  
関連産業を集積させ、  
より多くの雇用を生み出す！

地域地域で若者が暮らし  
持続可能な農業を実現！

### 柱3 流通・販売の支援強化

#### 規模に応じた販路開拓、販売体制の強化

- 青果物
- 越前流通
- 中規模
- 小規模
- 花き
- 集出荷施設の再編統合等による集出荷体制の強化
- 卸売市場と連携した業務需要の開拓
- 加工用ニーズへの対応
- こだわりニッチ野菜・果実の販路開拓
- 展示商談会や、スポーツイベント等を活用した販促・PRの強化

#### ブランド化の推進

- 高知家プロモーションの活用やパートナー農家等との連携による販促・PR

#### 農産物の輸出の推進

- 規模に応じた販路開拓、販売体制の強化

所得の向上！



## 林業分野の展開イメージ

## ～山で若者が働く、全国 有数の国産材産地～

### 分野を代表する目標

### 木材・木製品製造業出荷額等 原木生産量

出発点（H26）204億円⇒現状（H28）

207億円⇒4年後（H31）220億円⇒6年後（H33）232億円⇒10年後（H37）256億円

出発点（H26）61万m3⇒現状（H29）

66.8万m3⇒4年後（H31）78万m3⇒6年後（H33）81万m3⇒10年後（H37）90万m3

## 構築した川上から川下までの仕組みを生かして、“森の資源”を余すことなく活用

### 柱1 原木生産のさらなる拡大

#### ○生産性の向上による原木の増産

- ・森の工場の拡大・推進  
森林情報の精度向上（林地台帳の運用開始）
- ・効率的な生産システムの導入を促進  
本県の地形に適した林業機械の開発
- ・高性能林業機械等の導入・整備（リース事業の創設）  
林道整備の促進に向けた協議会・WGの開催  
森林組合の生産工程改善による生産性向上
- ・皆伐の促進
- ・原木の安定供給システムの構築



#### ○持続可能な森林づくり

- ・苗木の生産体制の強化
- ・間伐の推進



#### ○再造林コストの縮減

- ・一貫作業システムの促進



### 柱5 担い手の育成・確保

#### ○林業大学校の充実・強化

- ・林業大学校における人材育成
- ・専攻課程において林業・木造設計のエキスパートを育成
- ・森林組合等の県内事業体への雇用促進



#### ○きめ細かな担い手育成・確保の強化

- ・林業労働力確保支援センターとの連携  
定期相談会の開催  
フォレストス쿨の開催
- ・移住施策との連携による担い手の確保
- ・特用林産業新規就業者の支援



#### ○事業体の経営基盤の強化

- ・林業事業体のマネジメント能力向上
- ・林業事業体における就労環境の改善

- 小規模林業の推進  
・小規模林業の活動を支援

### 柱4 木材需要の 拡大

#### ○木質バイオマス発電所の安定稼働

#### ○木質バイオマスの利用拡大

- ・木質ペレット等の安定供給の促進
- ・幅広い分野での木質バイオマスボイラー導入の拡大
- ・木質バイオマス発電の促進



#### ○A材の需要拡大

- ・木造化を促進するため設計へ支援  
・デザイナー等と連携した商品開発



#### ○CLT等の普及促進

- ・CLT建築物の普及促進と需要拡大
- ・木造化を促進するため設計へ支援〔再掲〕  
・経済同友会との連携

#### ○住宅・低層非住宅建築物における木材利用の促進

- ・低層非住宅建築物の木造化の促進
- ・木造化を促進するため設計へ支援〔再掲〕  
・デザイナー等と連携した商品開発〔再掲〕  
・県産材を活用した木造住宅建築の促進



#### D材（端材等）

#### C材（低質材）

- ・バイオマス利用  
木質バイオマス発電所2箇所（H27稼働）

#### B材（中質材）

#### ラミナ用材

- ・CLT用ラミナ工場（H28稼働）
- ・集成材工場（H28稼働）

#### A材（良質材）

#### 建築用材

- ・大型製材工場（H25稼働）

### 柱2 加工体制の強化

#### ○高次加工施設の整備

- ・CLTパネル工場の整備

#### ○製材工場の強化

- ・製材事業体の加工力強化  
・事業戦略の策定及びフォローアップ  
・付加価値の高い製品づくり  
・県内企業による協業化・大型化の検討



## 林業・木材産業の形成

『拡大再生産』の  
好循環へつなげ、  
中山間地域を元気に！



### 柱3 流通・販売体制の確立

#### ○外商体制の強化・A材の販売促進

- ・TOSAZAIセンターによる販売促進



#### ○流通の統合・効率化

- ・県外流通拠点を活用した取引の拡大
- ・トレーラー等による低コスト・定期輸送の増加
- ・役物定期便の定着



#### ○販売先の拡大

- ・県外での土佐材を使用した建築の促進
- ・非住宅建築物への土佐材の活用
- ・海外への販売促進  
海外見本市等でのPR活動





## 水産業分野の展開イメージ ～ 若者が住んで稼げる元気 な漁村 ～

分野を代表する目標

漁業生産額(宝石リングを模く)

出発点 (H25) : 446億円 ⇒ 現状 (H28) 420億円 ⇒ 4年後 (H31) : 460億円 ⇒ 6年後 (H33) 476億円 ⇒ 10年後 (H37) : 490億円

水産加工出荷額

出発点 (H25) : 173億円 ⇒ 現状 (H27) 204億円 ⇒ 4年後 (H31) : 200億円 ⇒ 6年後 (H33) 203億円 ⇒ 10年後 (H37) : 220億円

### 生産から加工・流通に至る水産業クラスターの形成





## 商工業分野の展開イメージ ～拡大再生産による 雇用拡大と、地域の賑わいによる活気ある商工業～

分野を代表する目標 **製造品出荷額等** 出発点（H26）5,260億円 ⇒ 現状（H28）5,675億円 ⇒ 4年後（H31）6,000億円以上 ⇒ 6年後（H33）6,400億円以上 ⇒ 10年後（H37）7,000億円以上





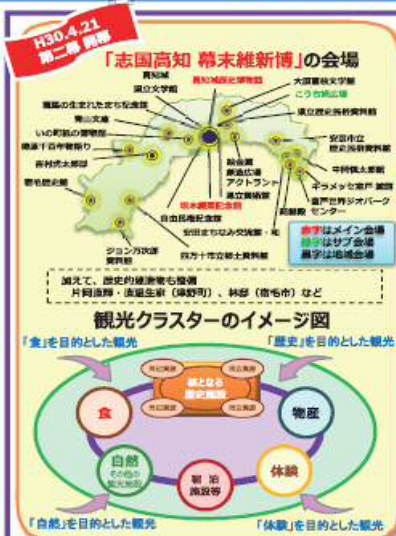
## 観光分野の展開イメージ ～世界に通用する「本物と出会える高知観光」の実現～

分野を代表する目標

**県外観光客入込数**  
**観光総消費額**

出発点(H27): 408万人 ⇒ 現状(H29): 440万人  
出発点(H26): 1075億円 ⇒ 現状(H29): 1126億円

⇒ 4年後(H31): 435万人以上 ⇒ 6年後(H33): 450万人以上 ⇒ 10年後(H37): 470万人以上  
⇒ 4年後(H31): 1230億円以上 ⇒ 6年後(H33): 1300億円以上 ⇒ 10年後(H37): 1410億円以上



### 【観光 商品をつくる】観光資源の発掘・磨き上げ

#### 戦略の柱1 戦略的な観光地づくり

- 本県観光の強みである「食」「歴史」「自然」の磨き上げ
- ・「志国高知 幕末維新博」の開催を通じた歴史資源の磨き上げとポスト幕末維新博に向けた準備対応（資源の磨き上げと）
- 「土佐の観光創生塾」による自然体験型観光商品づくりとアウトドア拠点など核となる観光地づくりの推進と再活性化
- 官民の一層の連携による広域観光組織の体制及び広域観光組織の機能強化・地域コーディネーターの配置
- 自然環境を活かしたスポーツツーリズムの推進
- ・サイクリングコースのPR及び環境整備の促進・スポーツイベント開催促進

#### 観光地づくり

による戦略的な観光地づくり  
き上げた観光クラスターの形成  
クラスターの形成（外国人受入対応を含む）  
事業者連携（地域観光クラスター化）の推進  
民間活力の導入  
機能の強化



#### 戦略の柱4 国際観光の推進

- 外国人向け旅行商品の販売促進
- ・対象市場のニーズに合った旅行商品の販売促進
- 高知龍馬空港の整備と連携したアクセス環境の向上
- ・国際チャーター便の戦略的な誘致拡大と商品造成販売



“おもてなし”で  
リピーター化

外国人観光客にも対応する  
歴史・食・自然を連動させた  
観光地づくりをさらに推進！

磨き上げた  
観光資源・商品を  
国内外の市場へ

### 【もてなす】受け入れ・リピーターの獲得

#### 戦略の柱3 OMOTENASHI(おもてなし)の推進

- 国内外からの観光客の満足度をさらに高めるための受入環境整備
- ・きめ細かな観光情報の提供（外国人観光案内所の設置）
- ・観光基盤の整備（受入態勢の充実）
- 外国人観光客とのコミュニケーション力の向上支援
- バリアフリー観光の推進



#### 戦略の柱4 国際観光の推進

- 高知龍馬空港の整備と連携したアクセス環境の向上
- ・高松空港等からのアクセスの向上

積極的なセールス  
& プロモーションで  
観光客が高知へ

### 【売る】PR・プロモーション

#### 戦略の柱2 効果的なセールス&プロモーション

- 効果的な広報・セールス活動の展開
- ・「志国高知 幕末維新博」の開催
- ポスト幕末維新博に向けた準備対応（キャンペーン戦略の策定と一部先行実施）
- ・国内外のマスメディアを活用した情報発信の強化
- 自然環境を活かしたスポーツツーリズムの推進
- ・アマ合宿・大会誘致、2020東京オリパラ、ラグビーワールドカップ2019事前チームキャンプ等誘致、高知龍馬マラソンの開催
- コンベンション等（MICE）の誘致活動の強化
- ・中小規模の大会・学会・報奨旅行の誘致
- ・高知県ゆかりの企業へのアプローチ

#### 戦略の柱4 国際観光の推進

- 効果的な広報・セールス活動の展開
- ・クロスメディアによる情報発信と国内外のマスメディアと連携した露出の強化
- 国際線直行便を持つ他県及び首都圏と連携した広域観光の推進
- ・広域周遊観光の推進
- 東京オリンピック・パラリンピックに向けた「よさこい」の戦略的な活用
- ・全国ネットワークの構築
- ・海外向けプロモーションの展開

四国ツーリズム創造機構の  
四国DMOに向けた取組

### 全体を 下支え

#### 戦略の柱5 事業体の強化と観光人材の育成

- 観光産業を支える事業体の強化や人材の育成と商品造成
- 「土佐の観光創生塾」による本県観光を担う観光人材の育成
- ・広域観光組織の機能強化
- ・外国人観光客におもてなしできる人材及びガイド団体の育成

成力の向上  
成と事業者連携(地域観光クラスター化)の推進  
支援





連携テーマ《地産地消・地産外商戦略（食品分野）》の展開イメージ～素材を生かした加工立県、県産品が全国ブランドに～

分野を代表する  
目標

食料品製造業出荷額等

出発点（H26）892億円⇒現状（H28）1,080億円 ⇒ 4年後（H31）1,000億円 + α ⇒ 6年後（H33）1,035億円 + α ⇒ 10年後（H37）1,085億円 + α

※目標は「食料品製造業」と「飲料・たばこ・飼料製造業」の出荷額等の合算

地産の強化

柱1 定番化に向けた商品づくり

食品加工のさらなる生産管理高度化支援

- 大手小売業者や業務筋に対応できる生産管理高度化への支援



- ・HACCP手法の定着・改善に向けた専門家派遣
- ・一般衛生管理研修の充実強化

農水産物加工の推進

- 農産物
  - 農産物加工の裾野の拡大とステップアップ
  - 直販所支援の強化
- 水産物
  - HACCPに対応した加工施設の立地促進
  - 冷凍保管ビジネスの事業化

市場が求める商品づくり

- 商品力アップへの支援
  - ・外食・中食商品相談会、商品力アップ相談会
  - ・高知県産品商談会の拡充（年2回開催）
- 商品開発・改良に向けた意欲の醸成
  - ・高知家のうまいもの大賞の開催
- 外商事業者のすそ野の拡大
  - ・地産外商会社による
  - ・商品づくりの伴走型支援
  - ・ブロック別商談・相談会の開催

外商の強化

柱2 外商支援の全国展開でより大きな商流へ

地産外商会社を核とした外商機会の拡大

- 地産外商会社の全国展開のさらなる推進
  - ・中部圏の外商活動の強化
  - ・ターゲット（小売・業務筋）を絞った効果的な外商活動の展開
  - ・ボランティアチェーン等との関係強化

県産品の認知度維持・向上と販売促進につなげる展開

- 高知家プロモーションの地域でのより一層の活用・定着に向けた高知家ブランディングの強化
  - ・高知家コンセプトのさらなる浸透
  - ・Web等を活用した高知家情報の発信



農水産物の外商強化

- 加工用ニーズへの対応
- ・「高知家の魚 応援の店」や「さかな屋高知家」を拠点とした外商活動の一層の強化

柱3 輸出戦略に基づく輸出振興の本格化

国・地域別の輸出拡大

- ・有望（安定）市場での展開
  - ・現地商社やキーパーソンとの関係を強化し、輸出促進を加速化
- ・新興（チャレンジ）市場での展開
  - ・企業の輸出戦略づくりと実行支援の強化

品目別の輸出拡大

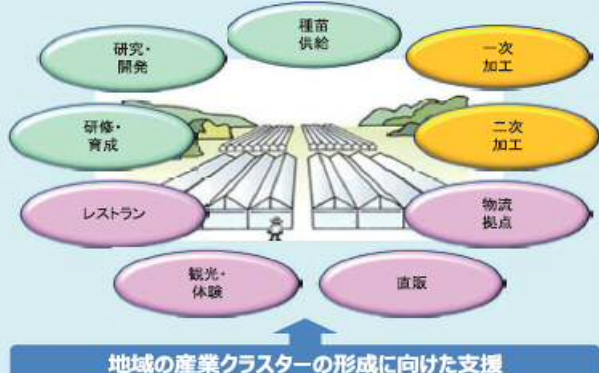
- ・ユズの輸出拡大（商社と目標・戦略を共有した取組強化等）
- ・土佐酒の輸出拡大（情報発信の強化、マッチング機会の拡大）
- ・養殖魚の加工と連動した海外市場への販路開拓
- ・生産現場と結びついた新たな品目の掘り起こし

好循環を生み出し 拡大再生産へ

拡大再生産策 の強化

柱5 地域に根差した産業クラスターの形成

第一次産業等を核として、地域地域に関連する産業群を生み出し、持続的な雇用と、より大きな経済波及効果を創出



地域の産業クラスターの形成に向けた支援

柱4 拡大再生産に向けた企業の成長を後押し

食品加工の総合支援

「食のプラットフォーム」を起点に「食品ビジネスまるごと応援事業」を活用

